

ホワソ  
ワド氏

財産差押法草案 第一卷

同法省記録文庫  
保  
第八百六  
三冊ノ内  
六號

第 第 第  
八 三 五  
架 號

司法省記録課藏書  
第一  
二  
號

司法省  
第六七號  
寄贈圖書文庫

XB500  
B 1  
2 a



XB500  
B 1  
2 a

差押法草案附註解

執行差押ノ總則

第一章

差押ヲ可カラサル物件ノ事

第二章

動産差押ノ事

第三章

艦、船、艇ヲ差押ヘル事

第四章

収納ヲ為ス以前ノ葉実即チ未タ土地ニ附着スル葉実ヲ差押ヘル事

第五章

制止差押即チ故障申立ノ事



667

XB500  
B 2 a b  
A. C.

司法省



第六章

保存差押ハノ事

第七章

不動産差押ハノ事

第八章

権利者ノ順序及ヒ配當ノ事

割合

總則

(佛蘭西訴訟法第五百四十五條乃至第五百五十六條)

此法律草按ハ後日編纂ス可キ訴訟法ノ中ニ加フ可キモノナリ

後日果シテ訴訟法典中ニ之ヲ挾入スルノ期ニ至ルモ別段太シク此草按ノ規則ヲ變更スルニハ及ハサルト思ハル如何トナレバ此規則ハ正当ノ訴訟手續ニ関スル法則ニ必シモ背馳スル所アラサルカ故ナリ

且ツ此草按ノ規則ハ強ク訴訟法ヲ頒布スルノ期ヲ俟タストモ別ニ之カ頒布ヲ速カニスルヲ善シトス是レ一方ニ向テハ常ニ狡猾意ヲ逞フシテ私利ヲ圖ラントスル義務者ノ為ニ振リニ損害ヲ蒙ラントスル権利者ノ利益ヲ保護セシカ為ニシテ他ノ一方ニ向テハ妄リニ嚴酷無情ノ振舞アル権利者ノ為ニ困難ヲ究メントスル義務者ノ利益ヲ計



畫セシカ為ナナリ  
佛蘭西ニ於テハ使吏及ヒ代訴人ナルモノア  
リテ常ニ賤産差押ノ處分ニ與カリテ尽カス  
ル所太タ少カラズト虽モ日本ニ於テハ未タ  
掌テ此等ノ更員ヲ設ケシト無シ故ニ此差押  
法ノ草按ヲ記スルニ中リテ際會シタル難題  
ノ一ト云フハ彼ノ使吏并ニ代訴人ノ欠ヲ補  
フ為メニ充ツ可キ一ノ方法ヲ按出スルニ在  
リ  
日本ニ於テ新タニ使吏并ニ代訴人ノ制ヲ設  
ケントスルハ敢テ余カ思慮スル所ノ意見ニ  
非サルナリ就中現今佛蘭西及ヒ其他ノ諸國  
ニ於テ実行スル使吏并ニ代訴人ノ制ヲ傳習

シテ直ニ之ヲ日本ニ施サントスルハ余カ最  
モ好マサル所ナリ蓋シ佛蘭西其他ノ諸國ニ  
行ハレル所ヲ以テ之ヲ觀ルニ使吏及ヒ代訴  
人ハ常ニ自ラ已レニ代ハリテ其職務ヲ繼續  
ス可キ承継人ヲ定ムルトテ得ルノ權アルカ  
故ニ從テ其職務ヲ他人ニ賣渡スト虽モ敢テ  
法律ノ禁セサル所ナリ此職務ヲ賣買スルト  
テ允許セルハ即チ大弊ヲ醸スノ由縁ナリ蓋  
シ此賣買ヲ允許スルカ故ニ常ニ其職務ニ付  
テ得ル所ノ入額ノ高ヲ増殖セントテ計ル其  
入額ヲ増殖セントテ計ルカ故ニ從テ訴訟手  
續ニ関スル諸件ノ成ル可ク繁多ナラシム  
務ム、訴訟手續ノ多カラシムトテ務ムルカ故ニ



大ニ其訴訟人ノ利益ヲ害スルニ至ルヲ免カ  
レズ

佛蘭西ニ於テハ仮令ヒ財産ノ差押ヲ為スト  
虽ヒ其得ル所ノ利益ハ殆ト代訴人及ヒ使吏  
ニ向テ拂フ可キ入費ト其訴訟ノ諸件ニ付テ  
政府ヨリ收受スル印税及ヒ記簿税ノ高トテ  
辨償セシカ為メニ充用セラル、ニ至リ其極  
訴訟ノ本人ハ終ニ著シキ利益ヲ自ラ収ムル  
丁能ハサル場合ニ至ル丁實際太ク其例多シ  
トス○實際ニ付テ之ヲ觀ルニ權利者ハ自ラ  
得可キモノ、中僅々此少ナル一部分ヲ受ク  
ルノミニ止マリ義務者モ亦舉ケテ自己ノ財  
産ヲ失却スルニ至ルモ尚ホ其負債ノ全部ヲ

償却スル丁能ハズシテ止ム是レ皆ナ右ノ弊  
害ヨリ現ハレル所ノ結果ナリ

右ニ記シタル使吏ノ欠ヲ補ハシカ為メニハ  
治罪法ニ記載セル所ト同様ノ方法ヲ以テ規  
定セリ此方法ハ即チ訴訟関係人ノ間ニ書類  
ヲ送達スルノ任ヲ書記并ニ書記ノ下役ニ擔  
当セシムルニ在リ

右ノ書記等ハ常ニ政府ヨリ相当ノ給料ヲ得  
テ其職ヲ奉スルモノナルカ故ニ必ス充分ノ  
信用ヲ博セサル可カラズ尠レバ此等ノ吏員  
ガ之ニ関スル場所日附及ヒ其他関係人ノ陳  
述シタル諸件若クハ執行シタル諸件ヲ附記  
シテ之ニ或ル証書ヲ渡シタリト申述スル時



ハ必ス之ヲ眞実ナル申述ナリト着做サ、ル  
可カラズ

代訴人ノ位置ニ代ハル可キモノハ別ニ之ヲ  
設置セズ故ニ總テ訴訟手續ヲ行フノ間始終  
自ラ参預シテ事ヲ為スモノハ即チ其訴訟ニ  
関係セル本人又ハ其特別ノ名代人ニ限ルナ  
リ

眞ニ困難ヲ究メタルハ即チ不動産差押ノ所  
ニ在リ後段ニ至テ不動産差押ノ諸則ヲ辨明  
スルニ当リ佛蘭西ニテ代訴人ヲ要スルカ為  
メニ得ル所ノ特別ナル利益ヲ説明シ從セテ  
日本ニ於テ此職務ノ欠ヲ都合宜ク補充スル  
為メニハ如何ナル方法ヲ新設スル丁ヲ要シ

タルヤヲ陳辨ス可シ

從是以下ハ各条ニ付テ下ス所ノ説明ナリ是  
レ即チ此法律草案按ノ辨明昏ト云フ可キモノ  
ナリ

(第一條)

執行差押ハ何年何号ノ布告ニ定メテ

ル如ク執行ノ定式ヲ具備スル裁判言渡昏ノ所持  
人又ハ公正證書ノ所持人ノミニ限リ之ヲ允許スル  
者トス(佛訴訟法第五百四十五条及第五百五十一条)

何レノ場合トモ凡ハ執行カヲ有スル証昏アル  
ニ非ラサレハ執行差押ヘテ為ス可カラズ云  
々

此法則ハ敢テ第五章及第六章ニ記載アル保  
存差押ニハ之ヲ適施ス可カラズ



法律上ニハ執行カヲ有スル丁ヲ得可キニ種  
ノ証昏ヲ記セリ即チ裁判言渡昏及ヒ公正証  
昏是ナリ

日本ニ於テハ未タ確然トハ公証人ノ職制ヲ  
設ケサルナリ去リナカラ此事ニ関スル規則  
ハ既ニ數年以前ヨリ之ヲ議セリ成ル可クハ  
速カニ之ヲ頒布スル方宜シカル可シ○公証  
人ノ要益ナルフハ勿論敢テ代訴人ノ比ニ非  
サルナリ持リ意ヲ注ク可キ所ハ公証人ヲシ  
テ其職務ヲ賣買スル丁ヲ允許セサルニ在リ  
裁判言渡昏ト虽モ他ノ公正証昏ニ等シク決  
シテ其終ニテ当然執行カヲ有スルモノニ非  
ズ別ニ裁判上ノ役員ニ宛タル命令ニシテ執

行ヲ為スニ要用ナル例文ヲ記載シタル特別  
ナル寫ヲ記スルヲ必要ナリトス

裁判所ニ於テ裁判ヲ言渡ス中ハ其書記ノ記  
スル第一ノ証書ヲ以テ右裁判所ノ決定ト為  
ス去レトモ裁判所ニ於テハ常ニ執行ノ命令  
ヲ言渡スニ非ズ故ニ書記ハ常ニ其勝訴人ノ  
要求ニ因リ之ニ一ノ寫ヲ渡ス此寫ハ常ニ大  
字ヲ以テ之ヲ記ス佛蘭西ニ於テ之ヲ稱シテ  
大寫ト云フハ蓋シ大字ヲ以テ之ヲ記スルカ  
故ナリ右寫ノ冒頭ニハ國首ノ名義ヲ以テ裁  
判所ニテ裁判ヲ言渡シタル旨ヲ掲クルナリ  
佛蘭西ニ於テハ時ノ政体ニ從ヒ或ハ國王ノ  
名義ヲ用井或ハ國皇ノ名義ヲ用井又或ハ佛



蘭西國民ノ名義ヲ用テ而シテ其末尾ニハ  
ノ語ヲ記載ス即チ該裁判言渡ヲ執行スル  
付キ助カヲ為ス可キ旨ヲ裁判上ニ関スル總  
テノ役員ニ要ム且ツ之ニ其旨ヲ命ス云々是  
ナリ

公証人ノ記スル公正証書ノ正本ハ常ニ其公  
証人ノ書類貯存所ニ之ヲ貯ヘ置クナリ此正  
本ハ唯其關係人ノ間ニ定メタル約束ノ事實  
ヲ記スルニ過キサルナリ

佛蘭西ニ於テ右証書ノ執行ヲ為スニハ必ス  
公証人ヨリ權利者ニ其証書ノ寫ヲ渡スナリ  
要スルナリ而シテ其寫ノ冒頭并ニ末尾ニハ  
前段ニ記シタル裁判言渡書ノ寫ニ記スル例

文ニ同様ナル事柄ヲ記載スルモノトス  
抑モ此例文ノ要益ナル所ハ執行ヲ為スニ付  
キ偶々抵抗スルモノアルニ當リテ助カヲ要  
メラレタル吏員ヲシテ別段細密ノ取調ヲ為  
スニ及ハズ直ニ一見シテ容易ニ其執行力ヲ  
有スル証書ナルヲ認知セシムルニ在リ  
日本ニ於テモ裁判言渡書ニ関シテハ既ニ右  
ニ述ヘタル所ニ類似セル事柄ナカラサル可  
カラズ是レシテハ唯或ル布告ニ意ヲ寓ス  
ルノミニ止マリ別ニ其日附ト号數トヲ明記  
セサル所以ナリ

公正ノ証書ニ執行力ヲ附スルノ定式ヲ為ス  
ハ如何ナル方法ナルカ又何レノ人ナルカハ



後ノ第五條ニ之ヲ規定ス

(第二條) 故障ヲ申立ルコトヲ得可キ裁判言渡(欠  
席裁判言渡)又ハ控訴ヲ為スコトヲ得可キ裁判言  
渡(始審裁判言渡)ハ其敗訴者本人ニ又ハ其者ノ  
住所ニ之カ告知ヲ為シタルヨリ八日間ヲ經テ  
ル後ニシテ且ツ此期限内ニ其上訴ヲ為サ、リ  
レ時ニ非サレハ(書記)執行ノ定式ヲ之ニ附ス可  
カラス、但シ訴訟法ノ規則ニ循ヒ故障又ハ控訴  
ノ如何ニ拘ハラス裁判言渡ノ以テ假リノ執  
行ヲ允許スル場合ハ此限りニ在ラス  
本條ニハ故障ノ申立ヲ為シ又ハ控訴ヲ為シ  
テ上訴スルコトヲ得可キ裁判言渡書ノ事ヲ記  
載セリ

故障ノ申立ハ欠席裁判ヲ受ケタル時ニ之ヲ  
為シ控訴ハ始審裁判ノ言渡ヲ受ケタル時ニ  
之ヲ為ス

裁判言渡ニ付キ故障ノ申立ヲ為スコトヲ得可  
キ時間又ハ控訴ヲ為スコトヲ得可キ時間中ハ  
決シテ執行力ヲ有スルモノニ非ズト思考ス  
ルハ大ナル誤謬ナリ○勿論裁判ノ上敗訴シ  
タル一方ニハ更ニ其裁判所ノ決定ヲ改メシ  
ムルニ決意スルニ付キ自ラモ熟考スル為メ  
人ニモ熟議スル為メニ多少ノ時間ヲ授ケサ  
ル可カラズ故ニ右ノ上訴ヲ為スニ付テハ必  
ズ充分ナル猶豫ノ期限ヲ與フルヲ要スルナ  
リ○去リナカラ顧ラ他ノ一面ヨリ之ヲ觀ル



中ハ敗訴シタル者ハ成ル可ク遅延シテ其執行ニ着手センコトヲ工面シ故意ヲ以テ根リニ右期限ノ終末ニ至ル迄上訴ヲ為スコトヲ見合セ又ハ之ヲ拋棄スルコトヲ見合セントスルヤモ計ラレズ○是故ニ法律ハ唯其定期ノ中一部分ノミノ時間中執行ヲ停止スル旨ヲ規定シ以テ右ノ利害ヲ調和センコトヲ務メタリ○尤レハ設シ上訴ヲ為サ、ルニ於テハ直ニ其執行ヲ始メ以テ之ヲ繼續ス可シ但シ後上訴ヲ為スコト至リテ更ニ此執行ヲ停止スルハ右ノ限ニ在ラサルナリ  
以上述フル所ノ定期ハ滿八日ヲ以テ限リトス而シテ此期限ハ決シテ其裁判言渡ノアリ

タル日ヨリ之ヲ起算スルニ非ス必ス本人又ハ本人ノ住所ニ裁判言渡書ノ送達ヲ為シタル日ヨリ之ヲ算スルヲ要スルナリ  
此期限ハ即チ佛蘭西法典ノ記定スルモノト同様ナリ(佛蘭西訴訟法第百五十五條及第四百五十五條參觀)  
法律ハ右ノ規則ニ一ノ例外ヲ加ヘタリ此例外ハ即チ故障ノ申立又ハ控訴ヲ為スコト拘ハラズ裁判所ヨリ許ルモテ假リノ執行ヲ命スル場合ニ関シテ設ケラレタルモノナリ  
去リナカラ取テ裁判所ニテハ如何ナル場合タルヲ問ハズ適宜ニ其假リノ執行ヲ允許シ得ルト云フニハ非サルナリ法律上ニハ明カ



ニ裁判所ニテ之ヲ允許シ得ル場合ヲ限リ係  
セテ必ス之ヲ允許セサル可カラサル場合ヲ  
規定スルナラン

(第三條) 右八日間ノ期限ヲ経過シタル後被告  
人故障ノ申立ヲ為スカ又ハ控訴ヲ為ス時ハ自  
ラ其上訴ヲ為シタル旨ヲ證明シタル上其執行  
ニ付テ故障ヲ述フルコトヲ得可シ  
故障ノ申立ヲ為ス時ハ直ニ其訴訟ヲ停止スル  
者トス、而シテ諸事皆其終ニ為シ置ク可シ、但シ  
原告人ハ裁判所長ニ請フテ急速吟味ヲ為サシ  
メ以テ右故障申立ノ有効ナルヤ否ヤヲ決定セ  
シムルコトヲ得可シ

法定ノ期限内ニ故障ノ申立ヲ為スカ又ハ控

訴ヲ為シタル時ハ直キ前キニ始メタル執行  
ヲ停止ス可シ但シ假リノ執行ヲ命ジタル場  
合ハ此限ニ在ラサルナリ○勿論右ノ如ク其  
執行ヲ停止スルニハ必ス上訴ヲ為シタル者  
ヨリ其旨ヲ明カニ証明スルヲ要スルナリ而  
シテ若シ他ノ相手方カ之ニ抗辨シテ其上訴  
ノ効アラサル旨ヲ述ヘルニ於テハ裁判所長  
ハ必ス急速吟味ヲ為シテ假リニ其決定ヲ下  
サ、ル可カラズ

急速吟味ニ関スル訴訟手續ハ委細訴訟法ニ  
之ヲ記定ス可シ○且ツ訴訟法ニハ係セラ急  
速吟味ヲ以テ為シタル決定ニ付テハ如何ナ  
ル方法ヲ以テ上訴スルコトヲ得ルヤヲ規定ス



ルナラン(佛蘭西訴訟法第八百六条以下參觀)  
(第四條) 法律ニ允許アル場合ノ外ニ於テ裁判  
言渡ヲ以テ假リノ執行ヲ命シタル時尚ホ其上  
訴ヲ為ス<sub>1</sub>ヲ得ルニ於テハ被告人自ラ右ノ上  
訴ヲ為スニ非サレハ其執行ニ付テ故障ヲ述フ  
ル<sub>2</sub>ヲ得ス、但シ差押ハ其上訴ニ付キ決定ヲ為  
スニ至ル迄保存ノ名義ニテ之ヲ履行スル<sub>3</sub>ヲ  
得可ク之ヲ維持スル<sub>4</sub>ヲ得可シ

爰ニ法律ノ規定スル<sub>5</sub>所ハ裁判言渡ヲ以テ誤  
リテ假リノ執行ヲ命シタル場合ナリ○此ノ  
如キ場合ニ於テハ先ツ兎モ角モ其裁判言渡  
ノ利益トナル可キ方ニ推測ヲ下サ、ル可カ  
ラサルカ故ニ上訴ヲ受ク可キ裁判所ニテハ

必ス預メ其假リ執行ノ当否ニ付テ決定ヲ為  
サ、ルヲ得ズ

尤レバ執行ヲ停止セシメント欲スル者ハ必  
ス預メ其上訴ヲ為シ然ル上ニテ右ノ執行ニ  
付テ故障ノ申立ヲ為ス可キナリ而シテ此等  
ノ手續ヲ終ハリタル後其者ハ更ニ裁判所ニ  
請フテ本案ニ関スル要求ニ付テ裁判ヲ下ス  
ノ前豫メ假リノ執行ヲ停止スル事ニ付キ決  
定ヲ得<sub>6</sub>ン<sub>7</sub>ヲ求ムルヲ要ス  
元来此假リノ執行ニ付テ故障ノ申立ヲ為ス  
事ハ純正ノ差押手續ニ屬ス可キモノニ非サ  
ルナリ故ニ爰ニハ之ヲ規定セサルナリ○此  
事ハ訴訟法ノ中假リノ執行ニ関スル法則又



ハ控訴ニ関スル法則ノ引續ニ之ヲ記載ス可  
シ○又右ニ反シテ法律上ニテハ假リノ執行  
ヲ命ス可キ旨又ハ假リノ執行ヲ允許スルヲ  
得可キ旨ヲ規定セルニ裁判所ニテハ之ヲ許  
ルサ、ル場合ニ関スル諸多ノ規則モ亦等シ  
ク之ヲ訴訟法ニ記載ス可キナリ(佛蘭西訴訟  
法第四百五十八條及第四百五十九條參觀)  
法律ハ第四條ノ終末ニ於テ既ニ執行シタル  
差押ハ取テ無効ニ帰セサル旨ヲ定メ且ツ未  
タ差押ノ執行ヲ始メサルモノナル時ハ更ニ  
之ヲ始ムルモ取テ差支ヘアラサル旨ヲ記載  
セリ但シ此ニ個ノ場合ニ於テハ差押ハ唯保  
存ノ差押トシテ其効ヲ生スルノミナリトス

第六章參觀

第五條 公證人ノ手ヲ經テ記シタル證書アリ

ト虽モ正確詳明ニシテ且ツ要求スルヲ得可キ  
物件又ハ金額ヲ目的トスル義務若クハ約諾ヲ  
記シタルモノニシテ且ツ公證人ノ適正ナリト  
確認シタル寫ニ其公證人ノ職務ヲ行フ土地ノ  
管轄内ニ在ル民事裁判所ノ書記執行ノ定式ヲ  
附シ以テ其裁判所長ノ驗真ヲ為シタル場合ニ  
非サレハ執行差押ヲ為ス丁ヲ得ス

第六條 急速吟味ヲ為ス時ハ裁判所長其執行

ノ定式書ヲ引渡ス時ヨリ滿三日以前ニ其執行  
ノ被告人ヲ呼出ス可シ  
右ノ被告人出頭セサリニ後ハ最早ヤ其差押ニ



信の無効あり  
抄のズルあり

付キ故障ヲ述フルコトヲ得ス、然レモ其財産ノ賣  
拂ニ付テ故障ノ申立ヲ為スコトヲ得可レ、但レ此  
場合ニ於テハ其執行命令ニ関スル法律上ノ條  
件ヲ欠夫アルコトヲ證明スルカ又ハ已レニ對ス  
ル證書ニ付キ詐偽ノ申立ヲ為スコトヲ必要ナリ  
トス

本条ノ規則ハ公正証書ノ執行力ニ関スルモ  
ノナリ

佛蘭西ニ於テハ公証人ハ自ラ其証書ニ執行  
力ヲ附スルコトヲ得可シト、虽モ日本ニ於テハ  
敢テ此方法ヲ採ラサルナリ、法律ハ殊更ニ義  
務者ヲ擔保スルノ主義ヲ以テ之ニ其裁判所  
長ノ自ラ參センコトヲ望ムナリ

所謂ル公正証書ナルモノニハ必ス正<sup>○</sup>確<sup>○</sup>詳<sup>○</sup>明<sup>○</sup>  
ニシテ且ツ要求スルコトヲ得可キ物件又ハ價額  
ヲ目的トスル義務若クハ約束ヲ記スルコトヲ  
要スルコト故ニ必ス常ニ此三個ノ条件ヲ具備  
スル確証ナカラサル可カラズ

右ノ手續ヲ行フニハ權利者ハ公証人ニ就テ  
正本ノ通りニ相違セサルモノト確認セラレ  
タル寫ヲ要求ス可ク其証書ヲ記シタル土地  
ヲ管轄スル裁判所ノ書記ニ就テ之ニ執行力  
ヲ附セシメテ要求ス可シ而ル後裁判所長ハ  
其復置ノ正当ナルコトヲ認定スル為メニ右執  
行ノ定式ヲ確認スルモノトス

夫レ然リ然レモ此ノ如キ重要ナル處分ヲ行



フニハ必ス其被告人ノ意見如何ニテ考察セ  
サル可カラズ○是レ第六條ノ法則アル所以  
ナリ  
該條ノ定ムル所ハ其被告人ヲ急速吟味ノ為  
ニ満三日以前ニ裁判所長ノ面前ニ呼出ス  
ニ在リ  
被告人果シテ自ラ出頭スル場合ニ於テハ第  
五條ニ記定アル三個ノ条件ニ欠ケル所アル  
トテ明示スルトテ得可シ就中被告人ハ權利  
者ヨリ未タ經過シ終ハラサル猶豫ノ期限ヲ  
已レニ允許セシ旨ヲ証明スルトテ得ハキナ  
リ  
若シ又被告人ノ呼出ニ應シテ出頭セサル場

合ニ於テハ之ニ拘ハラズ執行ノ定式ヲ附ス  
ルトテ得可シ取テ之カ為メニ其差押ヲ障ク  
ルトテ得サルナリ  
但シ被告人事宜ニ因リテ其法律上ニ定メア  
ル条件ノ具備セサル旨ヲ証明セント欲スル  
中ハ更ニ故障ノ申立ヲ為シテ其財産ノ賣拂  
ヲ止メシムルトテ得可シ  
此故障ノ申立ニ関スル訴訟手續ハ第十一條  
ノ規則ニ循ヒ民事裁判所ニテ之ヲ行フモノ  
トス  
若シ被告人が已レニ對スル証昏ノ全部又ハ  
一部ノ詐偽ニ係ル旨ヲ述ヘントスル時ハ必  
ス相當ノ例規ニ循テ裁判所ノ書記局ニ詐偽



ハ申立ヲ為シ以テ其詐偽ニ関スル訴訟手續ニ依ラサル可カラズ此訴訟手續ハ稍々繁雜ノモノニシテ且ツ其敗訴者ノ為メニハ常ニ多分ノ入費ヲ要スルナリ(訴訟法第二百十四条以下參觀)

(第七條) 總テ執行差押ヲ為ス時ハ豫メ其辨濟ヲ行フ可キ旨又ハ執行ヲ為ス可キ旨ヲ記シタル要決昏ヲ以テ其者又ハ其者ノ住所ニ其告知ヲ為スヲ要ス而シテ之ト共ニ其請求者本人ノ身分又ハ其申立タル權利ノ讓受人若クハ遺物相續人ノ身分ヲ指示ス可シ(第五百八十三條) 若シ執行力アル證書ノ送達ヲ被告人ニ為サ、ル前ナル時ハ右ノ要決昏ト共ニ其執行力アル

證書ノ性質ヲ指示ス可ク且ツ之ニ記載アル主要ノ諸件就中證書ノ日附、関係人ノ名前、是ニ供給ス可キ物件及ヒ其辨濟ノ期限等ヲ明示スルヲ要ス

法律ハ執行差押ヲ為スノ前豫メ其義務者ニ宛テ義務ノ辨濟ヲ為ス可キ旨又ハ義務ノ執行ヲ為ス可キ旨ヲ明記シタル最終ノ報知書即チ要決書ヲ差出サン一ヲ欲スルナリ蓋シ若シ之ヲ為ス時ハ始メ一向ニ應セサリニ義務者ト虽モ自ラ顧ミテ更ニ新ノ入費ヲ辨濟スルノ不幸ニ至ラン一ヲ避ケンカ为メ且ツ自己ノ財産ヲ賣拂ハル、ニ至ラン一ヲ恐レテ或ハ其義務ノ辨濟ヲ為ス一ニ決意スルヤ



モ計ラレサルカ故ナリ  
 本人カ如何ナル場所ニ在ルヲ問ハズ正当ニ  
 之ニ要決書ヲ送達スルヲ得可ク又本人カ  
 不在中ナルニ拘ハラズ正当ニ其住所ニ要決  
 書ヲ送達スルヲ得可シ  
 右ノ要決書ニハ必ス其原告人ノ如何ナル名  
 義ヲ以テスルカラ記載セサル可カラズ○例  
 ハハ其債主権若クハ権利ハ原告人ノ名前ニ  
 屬スルモノナルヲ記スルカ又ハ生存中ノ  
 處分ニテ原告人カ讓受ケタルモノナルヲ若  
 クハ遺物相續ニテ原告人カ得タルモノナル  
 ヲ記スルヲ要スルナリ○若シ此等ノ事柄  
 ヲ指示セサルニ於テハ義務者ハ偶然其權利

者ノ名前ニ非サル他ノ名前ヲ記シタル要決  
 書ヲ得テ真ニ其事ヲ信セサルヤモ計ラレズ  
 又或ハ其義務ヲ辨済スルニ決意セサルヲモ  
 アラン

加之法律ハ其証書ノ性質ヲ指示ス可ク且ツ  
 之ニ記セル主要ノ諸件ヲ登載ス可シト云ハ  
 リ是レ亦等閑ニ附ス可カラサル事柄ナリ

(第八條) 要決書及ヒ執行差押ハ總テ其原告人  
 ノ求メテ受ケタル書記又ハ書記局吏員ノ中一  
 人ニテ之ヲ為ス可シ

佛蘭西ニ於テハ所謂ハ要決書ナルモノニハ  
 諸多裁判上ニ関スル手續ノ諸件又ハ裁判外  
 ニ係ル手續ノ諸件ニ等シク渾テ使吏ノ姓名



ヲ手署ス可キ制規ナリ(訴訟ノ以外ニ在リテ  
裁判所ノ差圖ヲ受ケテ行フ諸件ヲ稱シテ裁  
判外ニ係ル手續ト云フ)○日本ニ於テハ成ル  
可ク裁判上ニ関スル諸種ノ吏員(ヲフヒエ  
ニニステリエール)ヲ設置スルヲ避ケンカ  
為メニ常ニ政府ヨリ給料ヲ受クル所ノ各記  
又ハ其下役ニ右ノ職務ヲ為サシムルモノト  
定メリ(「ミニステラリエールト云ハル形様詞ハ  
少シク奇怪ナル語ニテ右等ノ吏員ハ関係人  
ノ為メニ必ス其職務ヲ行ハガル可カラズト  
云フノ義ナリ此等ノ吏員ハ皆特別ナル權利  
ヲ有スルナリ)○但シ関係人ヨリモ亦必ス之  
ニ相当ノ賃料ヲ拂ハサル可カラズ而シテ其

賃料ノ中一部ハ書記局ノ費用ニ之ヲ充テ他  
ノ一部ハ其職務ヲ勵マシムル為メニ吏員ニ  
之ヲ授与スルモノトス

(第九條) 請求者ハ初度ノ入費ヲ前拂ニテ書記  
局ニ附託ス可ク且ツ其吟味中右ノ入費ニテ不  
足ナル時ハ其補足入費ヲ差出ス可シ但シ賣拂  
ニ因リテ得タル金額ヲ以テ已レニ返債セシム  
ルヲ得可シ  
重罪又ハ輕罪ニ関スル場合ニ於テハ犯罪人  
ノ為メニ訴訟手續ノ諸件ヲ行フニ當リテ要  
スル入費ニ充テル為メニ其被告人ニ命ジテ  
相当ノ金高ヲ前拂ニテ附託セシメントスル  
ハ素ヨリ為シ得可キヲニ非サルナリ若シ強



ラ之ヲ為サントスル時ハ根リニ資金ヲ有セ  
サル者(犯罪人ハ大概ニ資金ヲ有セサル者ナ  
リ)ヲシテ竟ニ辯護ヲ為スヲ能ハサラシムル  
ニ至ルヲ免カレサルナリ  
去レトモ民事ニ関スル場合ニ於テハ掌テ右  
ノ如キ理由アラサルナリ加之爰ニ云フ所ハ  
即チ其権利者ナリ義務者ニハ非サルナリ権  
利者ハ常ニ容易ク其資金ヲ得ルノ方法アル  
可シ且ツ其資金ノ全部ハ賣拂ニ因リテ得ル  
所ノ金高ニ付キ先取ノ權ヲ以テ必ス之ヲ返  
償ス可ケレバ益々其方法ヲ得ルニ困難アラ  
サル可シ

(第十條)

若シ訴訟ヲ起ス者其執行ヲ為ス可キ

邑内ニ住居セサル者ナル時ハ必ス其邑内ニ特  
別ノ住居ヲ選定スルヲ要ス  
訴訟ヲ受ケタル者ハ実物ノ提供ヲ為ス時ト其  
執行ニ付キ故障ヲ申立テルカ又ハ異議ヲ申述  
タル時トテ尚ハス権利者ノ選定シタル住所ナ  
ルカ又ハ権利者ノ有スル真ノ住所ナルカ隨意  
ニ其中ノ一ヲ選テ之ニ其旨ヲ告知スルヲ得  
可シ又裁判言渡ノ執行ヲ要メラレタル時之ニ  
對シテ行フ上訴ノ告知モ亦右ノ住所ニ之ヲ為  
スヲ得可シ

訴訟ヲ起ス者或ハ其執行ヲ為ス可キ郡区内  
ニ住居セサルヲ有リ此ノ如キ場合ニ於テハ  
其者自ラ其郡区内ニ特別ノ住居ヲ選定スル



ヲ要スルナリ如何トナレバ若シ之ヲ為サ、  
ル時ハ本条第二項ニ規定セルガ如ク其訴訟  
ヲ受ケル相手方ヨリ也ニ答辨ヲ為サントス  
ルカ又ハ交付ヲ為サントスルニ当リ太ク差  
支ハアルカ故ナリ強テ其者ノ真ノ住所ニ於  
テ右等ノ諸件ヲ行フ可シト定ムル時ハ必ス  
又其真ノ住所ヲ管轄セル裁判所ノ書記ニ之  
ヲ特別ニ依頼セサル可カラス(此依頼ノ事ヲ稱  
シテ「コンミツレヨシ、ロガトワールト云フ蓋  
シ此裁判所ニ關係スル事柄ヲ他ノ裁判所ニ  
在ル吏員ニ依頼シテ執行セシムルノ意ナリ)  
果シテ然ランニハ特リ時間ヲ費ヤスノ弊ア  
ルノミナラズ侘セテ莫大ノ入費ヲ要スルニ  
至ラン

本條第二項ノ法則ハ第一項ノ理由ヲ詳記セ  
ルモノナリ稍々判明ナルカ故ニ別ニ之ヲ解  
説スルヲ要セズ

**第十一條** 裁判言渡及ヒ公正證昏ノ執行ニ関  
スル諸多ノ問題ハ急速事件トシテ其執行ヲ為  
ス可キ土地ノ民事裁判所ニテ之ヲ裁判ス可シ

**第五百五十四條**

實際ニ當リテ之ヲ觀ルニ執行ニ関シテ遽カ  
ニ急速ノ決定ヲ要スル問題ヲ現出スルト屢  
々之レ有リ○差押ヲ為ス方法ノ各種ニ付テ  
此等ノ問題ニ関スル規則ヲ定ム可シ  
本条ノ法則ハ特ニ其執行ヲ為ス可キ土地ノ



裁判所ヲシテ右等ノ問題ヲ管轄セシメント欲  
スルナリ及令ニ其執行ヲ為ス可キ土地ハ被  
告人ノ住居スル土地ニ同シカラサル場合ト  
虽モ亦同様ナリトス如何トナレバ其執行ハ  
常ニ差押ハラレタル動産又ハ不動産ノ現存ス  
ル場所ニ於テ之ヲ為スモノナルカ故ナリ  
茲ニハ裁判所ノ所長ニテ急速吟味ヲ以テ其  
事件ヲ裁判シタルト裁判所全体ニテ急速吟  
味ヲ以テ其事件ヲ裁判シタルトヲ區別スル  
ニハ及ハサルナリ

(第十二條)

執行力ヲ有スル証書ノ意味及ヒ其

文義ノ廣狹ニ付テ異論ヲ生スル時ハ其裁判言  
渡ニ関スル場合ニ就テハ之ヲ言渡シタル裁判  
所ニテ其解釋ヲ為ス可ク其公正証書ニ関スル  
場合ニ於テハ被告人ノ住居スル土地又ハ特別  
ニ選定シタル住所ニ在ル裁判所ニテ其解釋ヲ  
為ス可シ

本条ノ規則ハ純粹ノ手續ニ屬スル執行ニ付  
テ起ル問題ト裁判言渡書又ハ執行力ヲ有ス  
ル証書ノ解釈ニ関スル問題トノ間ニ存スル  
差異ヲ示セリ○本条ノ場合ニ於テハ普通ノ  
管轄規則ニ從フ者トス蓋シ裁判言渡書ヲ解  
釈スルニテ自ラ管轄ス可キモノハ特ニ其言  
渡ヲ為シタル裁判所ニ限ルカ故ナリ  
若シ其公正証書ニ関スル場合ニ於テハ必ス  
其被告人ノ住居スル土地ニ在ル裁判所ニテ



之ヲ管轄ス可キナリ

第一章 差押エ可カラサル物件

總テ動産タルト不動産タルトヲ問ハス又有  
形ノ財産タルト無形ノ財産タルトニ拘ハラ  
ズ義務者ノ財産ハ悉ク其権利者ノ抵当ナリ  
トス是レ一般ノ原則ナリ(佛蘭西民法第二千  
九十二条及ヒ第二千九十三条參觀)  
又或ル場合ニ於テハ義務者ノ有スル財産ノ  
中或ル財産ヲ以テ殊更ニ或ル負債ヲ弁済ス  
ル為メニ抵当ト為スト有リ即チ質ノ抵当及  
ヒ書入質ノ抵当是レナリ此等ノ場合ニ於テ  
ハ其権利者タル者ハ右ノ財産ニ付キ他ノ權  
利者ニ對シテ常ニ先取ノ權ヲ有スルナリ  
右ニ述ハタル一般ノ原則并ニ特別ノ原則ハ



専ラ民法ニ屬ス可キモノナリ去リナカラ多  
少差押ノ手續ニ關係スル所アリ蓋シ權利者  
ハ後令ヒ自ラ質ノ權又ハ書入質ノ權ヲ有ス  
ル場合ト虽モ直ニ其物件ヲ引取リテ已レノ  
得可キ義務ノ辨済ニ充ントスル丁能ハサル  
可キカ故ナリ之ヲ為サニニハ權利者ハ必ス  
先ツ其財産ノ差押ヲ為シ以テ裁判所ニ委シ  
テ之ヲ賣拂ハシメザル可カラズ

附言○今日行ハレル日本ノ慣習ハ全ク之ニ  
反スルト云フ去レトモ其辨済ノ為メニ抵  
当ト為シタル物件ガ其權利者ノ有スル債  
主權ノ價ヨリ優リタル價アル場合ニ於テ尚  
ホ其權利者ニ右ノ物件ヲ其保保有スルノ

權ヲ授ケントスルハ余リ過当ニ失スルノ  
弊アリ權利者ハ根リニ不当ノ利益ヲ得ル  
ニ至ル就中既ニ利息ノ制限法アルニ於テ  
ハ權利者カ不当ノ利益ヲ得ルニ至ルト益  
々著ルシトス

本章ニハ先ツ例外ニ因リテ差押フル丁能ハ  
サル物件ノ事ヲ記セリ  
註解ニハ専ラ此例外ノ在ル理由ヲ詳明セシ  
ト欲スルナリ

(第十三条)○諸官員及ヒ政府ノ雇吏、官廳ノ吏員、  
并ニ陸海軍ノ將校等ニ授與スル給料、又ハ質料  
等ハ必ス特別ノ布告ニ因リ定メアル原  
由及ヒ部分ニ循ハサレバ之ヲ差押フル丁得



不  
政府又ハ官廳ヨリ支拂フ可キ恩施金、退隱料、其  
他之ニ類スルモノニ付テモ亦右同様ナリトス  
佛蘭西訴訟法第五百八十條〇共知十一年風月  
二十一日「即チ千八百一年三月十二日」法令參觀  
總テ公ケノ官吏ニ与フル給料及ヒ官廳ノ諸  
吏ニ給スル賃料ハ大概ニ其生計ノ為メニ唯  
一ノ方法ナリ  
社會ノ情誼是ニ一般ノ公益ニ関スル理由ノ  
アルアリテ及令ヒ至極正当ナル負債ノ為メ  
ナリト虽モ右等吏員ノ受ク可キ給料又ハ賃  
料ヲ悉ク取上ル「フヲ許ル」スニ至ラサルナリ  
苟クモ官吏タル者及ヒ其他ノ吏員タル者ヲ

シテ已レノ為メ是ニ其親族ノ為メニ常ニ衣  
食住ノ道ヲ得ルニ困マシムルニ至ルト云フ  
ハ實ニ其当ヲ得タルモノニ非ズ  
且ツ若シ之ヲ許ル時ハ必ス公益ノ為メニ  
大ナル弊害ヲ生スルニ至ラン如何トナレハ  
官吏ハ及令ヒ勤メテ其職務ニ従事スルト虽  
モ唯其權利者ノ利益ヲ圖ルニ過キサル「フヲ  
思ヒ竟ニ其職ヲ辞シ以テ他ニ其權利者ノ訴  
訟ヲ避クル」ニ便ナル生計ノ道ヲ得ン「フヲ圖  
ル」ニ至ルヤモ知ル可カラサルカ故ナリ  
顧シテ他ノ一面ヨリ之ヲ觀ルニ常ニ多分ノ  
給料ヲ受クル者ハ其權利者ノ為メニ自己ノ  
負債ヲ辨濟セサルノ間之ヲシテ少シク節約



シテ質素ニ生計ヲ為スニ至ラシムルモ敢テ  
無情ノ処置ニハ非サル可シ

是レ蓋シ或ル多クノ諸國ニ於テハ給料又ハ  
賃料ノ多少ニ准シテ相当ノ限度ヲ定メ以テ  
其高ノ中一部分ノミノ差押ヲ為スイヲ允許  
セル習慣アル所以ナリ

此等ノ事柄ニ関スル諸多ノ法則ハ専ラ行政  
法ニ屬ス可キモノナレバ寧ロ之ヲ訴訟法中  
ニ挾入セサルヲ以テ善シトス蓋シ右等ノ  
法則ハ後日ノ經驗ヲ待テ多少ノ改正ヲ加フ  
可キモノナレバ若シ一旦之ヲ訴訟法典中ニ  
記載スルニ於テハ其改正ヲ為ス毎ニ時々法  
典ノ順序ヲ紊乱スルノ弊アルヲ免カレサル

可キカ故ナリ○佛蘭西ニ於テハ殊更ニ特別  
ノ法律ヲ以テ給料ノ高ニ付キ差押フルヲ  
得可キ部分ヲ定メリ(訴訟法第五百八十条及  
ヒ共和十一年風月二十一日法令ヲ對照ス可  
シ)

總テ陸海軍ノ將校ニ授クル給料ニモ亦等シ  
ク右同様ノ原則ヲ適施スルモノトス(共和三  
年兩月十九日即チ千七百九十五年二月七日  
ノ法令ヲ參觀ス可シ)

本條ノ末項ニ於テハ義務者ヲ保護スル為メ  
ニ設ケタル右ノ規則ヲ擴張シテ以テ其他政  
府又ハ公ケノ官廳(即チ府縣郡區病院、鉄道、銀  
行、等ノ如キモノナリ)但シ其間多少ノ區別ア



リヨリ辨済セル恩給金ニ及ホシ行フ可シト  
定メリ

政府ヨリ辨済セル所ノ恩給金ハ皆ナ同様ナ  
ル性質アルニ非ズ○華族及ヒ士族ノ為メニ  
定メアルモノハ即チ此等貴族ノ専有セシ以  
前ノ特権ヲ買戻ス為メ又ハ之ヲ廢止スル為  
メニ設ケタル賠償ノ性質アリトス是等ノモ  
ノハ敢テ無償ノ名義ニテ之ヲ設定シタルニ  
非ズ全ク要償ノ名義ニテ之ヲ為シタルナリ  
嘗テ官職ニ在リタル者ニ辨済スル退隠料ナ  
ルモノモ亦等シク要償ノ名義ニテ之ヲ設定  
セシモノト看做スフヲ要ス而シテ是レハ敢  
テ其給料ノ中一部分ヲ月々貯存シ置キタル

ハ返納スレ  
担カサランラ  
心ヲ

カ為ノニ要償ノ名義ナリト云フニ非ス仮令  
ニ其毎月ノ貯存ヲ為サ、リレ場合ト虽モ亦  
然リトス如何トナレバ若シ此退隠料ナカリ  
セハ常ニ給料ノ高ヲ尚ホ多カラシメタル可  
キカ故ナリ

賞施金ナルモノハ間々國家ノ為メニ尽シタ  
ル功勞アルニ由リ専ラ授与スルモノナルヤ  
疑ナシト虽モ全ク無償ノ性質ヲ有スルモノ  
ナリ○去レトモ之カ為メニ別段差押ノ權利  
并ニ其限度ニ付テ少シモ影響ヲ及ホスフア  
ラサルナリ

トス  
第十四条 ○ 尤ノ諸件ハ差押ヲ可カラサルモノ



第一、常備中ニ在ルト豫備中ニ在ルトヲ尚ハ  
ズ陸海軍將校ノ衣服其他帶身ノ諸件

第二、生存中ナルト死後ナルトヲ尚ハズ退隱  
シタル將校ノ刀、劔

第三、本國又ハ外國ノ勲章又ハ其名譽ノ表証、  
皇帝若クハ官廳其他真正ノ會社等ヨリ附与シ  
タル刀劔又ハ賞牌

第四、差押ヲ為ス時ニ其差押ヲ受クル者及ヒ  
其家族ノ着用スル衣服但シ詐偽ヲ為シテ着用  
スルモノハ此限ニ在ラズ

第五、本人ノ未ダ発行セザル自筆ノ昏類、学藝  
上ニ係ル未終ノ諸件、其家族間ニ関スル昏面及  
ヒ其他ノ昏類

第六、別段詐偽ヲ行フニ非スレテ直接ニ其家  
ノ神佛又ハ死者ノ為メニ用フ可キ諸件

第七、差押ヲ受クル者ノ臥床、之レト同居スル  
家族ノ臥床又ハ仮令ヒ同居セズト虽氏其差押  
ヲ受クル者ヨリ食料ヲ給与スル親族ノ臥床

第八、本人并ニ其家族ノ一ヶ月間用フルニ充  
分ナル最要ノ飲食物

第九、裁判所ノ命令ニテ附与シタルト贈遺又  
ハ遺囑ニテ他人ヨリ得タルモノナルトヲ尚ハ  
ズ總テ食料ニ充ツ可キ債主権又ハ其他ノ食物  
第十、本人ノ職務ヲ執行スル為メニ必要ナル  
昏籍又ハ学藝上ノ機械其他ノ器具但シ其價五  
十円ニ至ル迄ニシテ且ツ本人ノ擇ニ任ス可シ



○後改第十七条ニ定メアル規則ハ右ノ限ニ在  
ラズ

第十一、差押フ可カラサル条件ヲ定メテ其義  
務者ニ生存中ノ贈遺トシテ与ヘタル諸件又ハ  
遺囑ノ贈遺トシテ与ヘタル諸件

第十二、右ノ外特別ノ法律ヲ以テ差押フ可カ  
ラサルモノト定メタル諸件

本条ニ記列セル十二種ノ諸件ハ真ニ差押フ  
可カラサルモノナリ

第一号ノ場合ニ於テハ専ラ陸海軍ノ将校ニ  
関スルモノナレバ其理由全ク國家ノ公益上  
ニ在リテ存スルナリ○陸海軍ノ将校ハ皆ナ  
自ラ用フル軍服刀劔ノ所有權ヲ有ス或ル場

合ニ於テハ其常ニ使用スル馬及ヒ馬具類ニ  
至ル迄悉ク之ニ屬スルヲ有リ是レ皆ナ護國  
ノ為メニ要用ナルモノナリ假シ此等ノ諸件  
ヲ差押フルヲ得ルニ於テハ右等ノ者ハ竟  
ニ其護國ノ職分ヲ竭スヲ能ハサルニ至ル可  
シ

法律ハ爰ニ兵卒ノ事ヲ記セズ蓋シ兵卒ハ皆  
ナ自ラ其軍用ノ諸件ヲ所有スルニ非サルカ  
故ナリ

下士官ノ自ラ所有スル軍用ノ諸件ニ付テハ  
等シク将校ノ為メニ設ケアル前段ノ法則ヲ  
適施ス可シ

第二号第三号第四号第五号及ヒ第六号ニ記



列アル法則ハ皆十人間至当ノ道理ト義務者  
一身上ノ名誉ニ関スル理由トニ基キテ設ケ  
ラレタルモノナリ

且ツ第二号第三号第五号及ヒ第六号ニ記載  
アル諸件ハ概シテ著シキ價額ヲ有スルモノ  
ニ非サレハ仮令ヒ之ヲ差押フ可カラサルモ  
ノトスルモ權利者ニ於テ為メニ大ナル損害  
ヲ蒙ル可キ恐レアラサルナリ

差押ヲ行フ時ニ当リ其義務者ノ着用スル衣  
服ノ事ニ付テハ法律上殊更ニ其詐偽アル場  
合ヲ規定セリ○義務者が所有スル衣服ノ中  
急ニ最良ノモノヲ選テ着用セントスル時ハ  
無論其詐偽ノ所為アリト之ヲ看做ス可シ且

ツ多クノ衣服ヲ過当ニ重ネテ用フル場合モ  
亦等レク其詐偽ノ所為アリトス

第七号第八号第九号及ヒ第十号ニ記載アル  
法則ハ専ラ人情ニ基キラ定メラレタルモノ  
ナレハ別段辨明スルヲ要セズ○第十号ニ記  
スルモノト虽モ等シク人情ニ基クト云フ所  
以ハ蓋シ其義務者ノ職業ニ関スル諸器具ハ  
實ニ本人及ヒ其家族ノ為メニ生計上必須ノ  
モノナルカ故ナリ

第十一号ノ法則ハ遺囑ヲ為ス者若シニ贈遺ヲ  
為ス者ヲシテ差押フ可カラサル条件ヲ定メ  
テ財産ヲ遺囑ノ贈遺ト為スヲ又ハ之ヲ生存  
中ノ贈遺ト為スヲ得セシムルト云フノ主



意ナリ

法律ハ敢テ要償ノ約束ヲ以テ右ノ如キ条件  
ヲ定ムルヲ允許セザルナリ如何トナレバ  
若シ之ヲ許ルス時ハ大ニ權利者ノ為メニ詎  
偽ヲ行フニ容易ナル可キカ故ナリ義務者ハ  
差押フルヲ得可キ自己ノ金額ヲ以テ他ニ  
不動産ヲ買入ル、カ又ハ差押フルヲ得可  
キ自己ノ財産ヲ以テ他ノ財産ト交換ヲ為シ  
其約束ノ相手方ヲシテ殊更ニ差押フ可カラ  
サル条件ヲ定メシメ以テ其財産ニ付キ權利  
者ノ訴訟ヲ免カレンフヲ計ルヤモ知ル可カ  
ラサルナリ

ニ因リ自ラ讓渡スル財産ノ差押ヲ免カレシ  
メントスルニ付キ別段至当ノ利益アラサル  
可シ之ニ及シテ遺囑ノ贈遺ヲ為ス者又ハ生  
存中ノ贈遺ヲ為ス者ハ固ト其受贈者ノ不如  
意ナル位置ヲ憐察シテ之ヲ為スモノナレバ  
受贈者ニ於テ真ニ其贈遺ノ利益ヲ受クルフ  
ヲ得ルニ至ランフヲ欲望ス可キナリ  
此号ノ法則ハ素ヨリ其人ノ隨意ニ任シテ差  
押フ可カラサル物件ナリト定ムルヲ得可シ  
ト云フノ主意ニ出ラタルモノナルカ故ニ其  
実等ク人情ニ基ク所ナキニ非サルナリ  
且ツ義務者カ無償ノ名義ニテ獲得セシ場合  
ニ於テハ其差押フ可カラサルモノト定メテ



ル財産ニ付キ権利者ハ取テ始メヨリ権利ヲ有シタルニ非ス故ニ此等ノ財産カ義務者ノ家産中ニ加ハルニ至ルモ権利者ハ之ニ付テ自己ノ訴権ヲ執行スルヲ能ハズト云フヲ以テ遺憾ナリトスルヲ得ス  
本条ニ記列アル差押フ可カラサル財産ノ外後日特別ノ法律ヲ以テ更ニ其場合ヲ増加スル丁有ル可シ是レ最終ニ第十二号ノ法則ヲ以テ豫メ其事ヲ記載セル所以ナリ○後日更ニ設クル場合ト虽モ其理由ハ必ス公益ニ基クカ又ハ人情ニ関スルモノタルニ外ナラサル可シ

第十五條 ○民法第十條ノ規則ヲ以テ用方ニ因

レル不動産ナリト定メラレタル動産物ハ必ス其附着スル不動産ト共ニ差押ヲ為スニ非サレバ特別ニ之カ差押ヲ為スヲ得ス  
但シ右等ノ物件ニ付キ代金ノ辨済ヲ受ケサル賣主又ハ自己ノ入費ヲ以テ之ヲ修繕シ若クハ之ヲ保存シタル者ハ之カ差押ヲ為スヲ得可シ

本条ニ定ムル所ハ真ニ差押フ可カラサル諸件ノ事ニ非ス唯其差押ノ権ニ関スル制限ノ事ナリ

性質上動産タル物件ニシテ所有者ノ用方ニ因レル不動産ト為シタルモノヲ以テ其附着スル不動産ト分テ之ヲ差押フルヲ得ル



トスル時ハ當ニ其動産ノ價值ヲ減損スルノ  
ミナラス促セテ其不動産ノ價額ヲモ減少スル  
ニ至ルヲ免カレズ

法律ハ爰ニ一ノ例外ヲ設ケテ右等動産物ノ  
賣主又ハ之ヲ修繕シタル者若クハ之ヲ保存  
シタル者ハ其附着スル所ノ不動産ト別ケテ  
之ヲ差押フルヲ得可シト定メリ蓋シ若シ  
之ヲ許ルサズシテ必ス其不動産ト共ニ之ヲ  
差押フ可シトスル時ハ其賣主若クハ修繕者  
保存者ノ為メニ計ラサルノ困難ヲ生スルニ  
至ル可キカ故ナリ

（第十六条）○差押ヲ受ケタル者自己ノ素性物（マ  
チエール、パール、イエール）ヲ以テ製造ヲ為ス職工

ニシテ其器具第十四条第十号ニ定メアル五拾  
四ノ價ニ不足スル時ハ裁判所ニ請フテ急速吟  
味ヲ為サシノ以テ自ラ保有スル素性物ヲ以テ  
其五十四ノ不足高ヲ補充セシムルヲ得可シ  
總テ製造物ヲ製作スル為ニ用フル素性物  
ハ其製造物ニ等シク差押フルヲ得可キモ  
ノナリ去リナガラ義務者カ第十四条第十号  
ノ規則ニ循ヒ其職業上ニ関スル諸機具ニ付  
テ未タ九十四ノ金高ヲ貯存セサル間ハ更ニ  
裁判所ニ請フテ自ラ素性物ヲ貯存シテ以テ  
其五十四ノ不足高ヲ補ハント求ムルヲ得  
可シ是ノ如クスル時ハ其義務者ノ為メニハ  
引続テ職業ヲ営シ以テ生計ヲ為スニ便アリ



○権利者モ亦果シテ能ク自己ノ利益ヲ量知  
スル者ナラバ必ズ其義務者ニ許シテ漸次ニ  
製出スル物件ヲ賣拂ハシテ以テ更ニ新ノ素  
性物ヲ買入ル、ノ便宜ヲ与フルナラン

(才十七条) ○又裁判所ニテハ其差押ヲ受ケル  
本人ノ請求ヲ為シタル時其事實ノ模様ヲ量リ  
家族ノ需要ニ充ツ可キ金高ヲ其差押ヘラレタ  
ル本人ノ財産中ヨリ引去ルコトヲ允許スルヲ得  
可シ但シ其金高ハ差押人ノ有スル権利ノ高十  
分一ヲ超過ス可カラズ又何レノ場合ト虽モ五  
十四ノ金高ヲ超過ス可カラズ  
抑モ本条ニ於テ法律上裁判所ハ事宜ニ因リ  
其差押ヘラレタル財産ノ中五十四ノ高ヲ引

去ルコトヲ義務者ノ為メ且ツ其家族ノ為メニ  
允許スルコトヲ得可シト定メラルハ全ク前条  
ト同様ノ主意ニ出テタルナリ○此ノ如キ請  
求ヲ受ケタル時ハ裁判所ハ常ニ其模様ヲ視  
察シ以テ才十四条才七号才八号才九号及ヒ  
才十号ニ定メアル如ク差押ヲ可カラサル財  
産ノ利益ヲ得可キ義務者ナルヤ否ヤヲ探究  
シタル上右ノ請求ヲ加減シテ其裁判ヲ為ス  
可キナリ

(才十八条) ○如何ナル場合ト虽モ既ニ差押ノ上  
行フタル賣買ニ於テ其物件ヲ買取リタル他人  
ニ對シテハ動産物ニ関スル差押ヲ可カラスト  
云ヘル規則ヲ以テ故障ノ申立テヲ為ス可カラ



又差押ノ可カラサル条件カ一ノ遺囑存若クハ  
生存中ノ贈遺証書ニ據リ主スル時登記ノ式ヲ  
以テ之ヲ認知スルヲ得ルニ於テハ不動産ノ  
獲得者ニ對シテモ亦其故障ノ申立ヲ為ス  
得可シ

差押ヲ可カラズト云フノ規則アリト虽モ決  
シテ其差押ノ目的トナリタル財産ヲ買取り  
タル他人ノ害トナル可カラズ及令ト不当ニ  
差押ヘラレタル財産ニ関スル時ト虽モ亦右  
同様ナリトス但シ是レハ皆其買取りタル他  
人カ自ラ其財産ノ模様如何ニテ了知スルヲ

能ハサル場合ノミニ限ルナリ

才十四条ニ記載アル才二号乃至才十号ノ場  
合ニ於テハ專ラ其差押ノ状況ニ因リテ始テ  
如何ナル動産物ノ模様ナルカヲ定ムルニ過  
キサルカ故ニ他人ハ屢々其事實ヲ知ルヲ能  
ハズシテ之ヲ買取ルヲ有ル可シ  
是レ法律上動産物ニ関スル場合ニ於テハ一  
切他人ニ對シテ取戻ノ訴権ヲ行フヲ禁シ  
タル所以ナリ  
不動産ニ関スル場合ニシテ若シ其他人カ登  
記ノ式ニ依リ差押ヲ可カラサル条件アル物  
件ナルヲ知リ得タルニ於テハ自ラ其故障  
ノ申立ヲ受ケズト云フヲ得ズ例ハ生存



中ノ贈遺ヲ為シタル場合ニ於テ此ノ如キ一  
有ル可シ蓋シ不動産ヲ以テ生存中ノ贈遺ト  
為ス時ハ必ス登記ノ式ヲ履行セサル可カラ  
サルカ故ナリ

遺囑ノ贈遺ハ別ニ登記ノ式ニ依ル可キモノ  
ニ非ス尤レハ遺囑各ヲ以テ及令ヒ差押ヲ可  
カラサル条件ヲ定メ置クト虽モ他人ハ更ニ  
之ヲ承知スルニ由ナカル可シ○去リナカラ  
之カ為メニ別段著シキ危害ヲ生スルニ至  
ラサル可シ如何トナレバ其自ラ差押ヲ為ス  
昏記ハ常ニ差押ヲ受ケタル者カ真ニ所有ス  
ルモノナルヤ否ヤヲ確認ス可キカ故ニ果タ  
シテ其遺囑各中ニ差押ヲ可カラサル条件ヲ  
定メアルヤ否ヤヲ知ルヲ得可キヲ以テナ  
リ而シテ果シテ其条件アルニ於テハ決シテ  
其糶賣ヲ為ス可カラサルナリ



三  
四  
省

第二章

動産差押ノ事

(佛訴訟法才五百八十三  
条乃至才六百二十五条)

才十九条〇動産ノ差押ハ才七条ニ規定アル要  
決昏ヲ为シタル時ヨリ二十四時間ヲ経タル後  
ニ非サレバ之ヲ行フヲ得ス(才五百八十三条)  
右ノ要決昏ヲ为シタル後三ヶ月内ニ其差押ヲ  
行ハサル時ハ原告人、費用ヲ以テ其要決昏ヲ  
更新スルヲ要ス

抑モ本条ニ於テ法律カ要決昏ヲ为シタル時  
ヨリ差押ヲ行フニ至ル迄二十四時間、猶豫  
アルヲ要ナリト为シタル所以ハ其義務  
者ヲシテ尚ホ義務執行ノ方法ヲ回ラシメン  
カ为メナリ

此法则アルカ为メニ義務者ハ却テ右猶豫ノ



時間ヲ幸トシテ其財産ノ中一分ヲ隱匿スル  
ノ便ヲ得ルヤモ計ラレズ○去リナカラ是レ  
ハ未タ其要決昏ヲ為ス以前ニ在リテモ尚ホ  
免カレサル所ナリ如何トナレバ多クノ場合  
ニ於テハ必ズ其訴訟ヲ為シタル上ニテ裁判  
ヲ下ス可キカ故ナリ

且ツ權利者ハ常ニ其義務者ノ監督ヲ為サシ  
ムルヲ得可ク又若シ果シテ之ヲ隱匿スル  
ニ至テハ權利者ハ更ニ惡意ヲ以テ預リ主ト  
ナリタル他人若クハ惡意ヲ以テ買主トナリ  
タル他人ニ對シテ差押ヲ行フ為メニ其物件  
ヲ追従スルヲ得可シ  
法律ハ始メ要決昏ヲ為シタル後三ヶ月間ニ

其差押ヲ行ハサルニ於テハ更ニ權利者ノ費  
用ヲ以テ之ヲ更新セシメテ望メリ

佛蘭西法律ハ單ニ不動産ノ差押ニ付テ此規則ヲ設ケ  
タルノミナリト虽モ更ニ擴張シテ動産ノ差押ニモ  
亦等シク之ヲ及ホスヲ以テ至當ナリト思ハル  
才二十条○欠席裁判言渡又ハ始審裁判言渡ニ  
因リ要決昏ヲ為シ且ツ故障ヲ申立又ハ控訴ヲ  
為ス者アルニ因リ其執行ヲ停止シタル時故障  
申立人又ハ控訴原告人其執判言渡ニ對シテ起  
シタル上訴ニ付敗訴シタルニ於テハ被告人ノ  
費用ヲ以テ其要決昏ヲ更新スルヲ要ス  
故障ノ申立ヲ為スヲ得可キ裁判言渡昏又  
ハ控訴ヲ為スヲ得可キ裁判言渡昏ハ及令



と未々確定スルニ至ラサル以前ナリト虽モ  
尚ホ執行力ヲ有スルヲ得可シ是レ既ニ未  
ニ条ノ法則ニ記載スル所ナリ  
先ツ右等ノ裁判言渡唇ヲ送達シタル後八日  
ノ時間ヲ経過シタル上ハ仮令ヒ未々其故障  
ノ申立ヲ為スノ權又ハ控訴ヲ為スノ權が止  
息セザル時間中ト至モ正当ニ之カ執行ヲ為  
スヲ得可キナリ  
加之右等ノ裁判言渡唇ニ付テハ仮令ヒ其故  
障ノ申立ヲ為ス可キ期限ノ経過セサル時間  
中ト至モ裁判所ニテ假リノ執行ヲ允許ス可  
キ旨ヲ言渡スヲ得可キ且ツ裁判所ニテハ  
其故障ノ申立ヲ真ニ為シタルニ拘ハラズ又

其控訴ヲ為シタルニ関セシテ右ノ假リ執  
行ヲ命スルヲ得可シ  
才一ノ場合ニ於テハ其執行ノ為メニ初度ノ  
要決唇アリ後ニ至リテ相当ノ時間中ニ果シ  
テ故障ノ申立ヲ為スカ又ハ控訴ヲ為スニ於  
テハ必ス先ツ其執行ヲ停止スルモノトス  
而ル後々若シ其故障ノ申立人又ハ控訴ノ原  
告人カ竟ニ敗訴シタル時ハ更ニ新ノ要決唇  
ヲ為シタル以上ニ非サレバ其訴訟ヲ引續テ  
為スヲ得ス○但シ更メテ其差押ヲ為ス可  
シト云フニハ非サルナリ此場合ニ於テハ未  
三十九条ニ記載アル場合ニ等シク其差押ヲ証  
明スル調唇ヲ記スルノミヲ以テ充分足レリ



トス

故障ノ申立ヲ為スカ又ハ控訴ヲ為スニ拘ハ  
ラヌ假リノ執行ヲ允許シタル場合ニ於テハ  
嘗テ其訴訟ヲ中断スルニ至ラサルカ故ニ更  
ニ其要決昏ヲ為スニハ及ハサルナリ

才二十一条〇若シ要決昏ヲ為シタル後ニ被告  
人死去スルト虽モ之カ为メニ別段其要決昏ヲ  
更新スルニ及ハズ其遺物相続人ニ付テ差押ヲ  
為スヲ得可シ但シ才二十三条ニ規定スル所  
ニ此限ニ在ラズ

遺物相続人ハ皆テ其先人ノ身ニ代リテ事ヲ  
継続スルモノナルカ故ニ前キニ死者ニ對シ  
テ着手シタル財産ノ差押ヲ引續テ行フト虽

凡別段新クニ其法式ヲ更ムルニ及ハズ但シ  
其差押ヲ受ケル本人カ既ニ其要決昏ヲ受ケ  
タル後ニシテ未タ其差押ヲ行フ前ニ死去シ  
タル時ハ必ズ新ノ要決昏ヲ為シタル後ニ非  
サレハ其差押ヲ行フヲ得ス尤モ此新クニ  
為ス要決昏ニハ唯最初ニ為シタル要決昏ノ  
事ヲ記スルヲ以テ足レリトス(才二十三条参  
観)

才二十二条〇差押ヲ受ケタル本人又ハ其住所  
ニ一個ノ要決昏ノ告知ヲ為シタル以上ハ其者  
ニ属スル諸多ノ動産カ何レノ場所ニ在ルヲ問  
ハズ悉ク其差押ヲ為スヲ得可シ  
義務者ニ属スル諸多ノ動産カ存在スル場所



ノ同シカラサル時ハ必ス別々ニ其動産ノ差  
押ヲ為ス可シト虽モ之カ为ノニハ唯々一ノ要  
決昏アルヲ以テ足レリトス  
若シ又其義務者が同一ノ繞圈内ニ数多ノ動  
産ヲ有スル時ハ唯々一ノ差押ヲ為スニ過キサ  
ル可シ而シテ自ラ其差押ヲ行フ昏記局ノ吏  
員ハ漸次ニ各家屋中ニ出張シ以テ其各室ニ  
在ル物件ノ概畧ヲ記ス可シ  
才二十三条〇義務者ノ不在ナルト昏トヲ問ハ  
ス其住所ニ於テ差押ヲ為ス時又ハ其住所以外  
義務者ノ現ニ在ル場所ニ於テ差押ヲ為ス時ハ  
前ノ要決昏ノ事ヲ記シテ更新シタル一ノ要決  
昏ヲ豫ノ差出スヲ要ス

右ノ要決昏ハ差押ノ調昏ニ之ヲ記入ス可シ且  
ツ竟ニ充分ナル昏ヲ得サルニ於テハ直ニ其差  
押ヲ為ス可シ  
差押ヲ為サントスルニ当リテハ必ス豫メ其  
要決昏ヲ更新スルヲ要スルナリ但シ之カ为  
メニハ別段ノ法式ヲ履行スルニ及ハズ唯其  
義務者が現ニ在ル時ハ義務者ニ対シ又ハ義  
務者ノ不在ナル時ハ之ニ代ハル可キ者ニ対  
シテ口上ニテ其旨ヲ命令スルノミヲ以テ足  
レリトス而シテ此年令昏ニハ前キニ為シタ  
ル要決昏ノ事ヲ記シ以テ其差押ノ調昏ノ冒  
頭ニ之ヲ附記ス可シ  
此場合ニ至リテ若シ義務者カ其権利者ノ为



ノ利益トナル可キ意見ヲ示スト虽モ唯其  
得可キ利益ノ一部分ヲ買フニ過キサル意見  
ナル時ハ之カ为メニ其差押ヲ为スニ付キ少  
シモ差支ヘアルト無カル可シ但シ権利者ガ  
其昏記局ノ吏員ニ対シテ別ニ考ケル所アル  
旨ヲ告ケタル時ハ此限ニ在ラズ  
才二十四条〇差押ハ總テ日出ノ前又ハ日没ノ  
後ニ之ヲ为ストヲ得ズ

凡ソ訴訟ニ関スル諸件ハ人民ノ休息ス可キ  
時間中ニ之ヲ为ス可カラズト云フハ蓋シ一  
般ノ原則ナリ〇此等ノ事ニ関シテハ宜シク  
單一ノ規則ヲ設ケサル可カラズ故ニ太陽ノ  
出没スル時刻ヲ以テ其時間ノ始終ヲ定ムル

ヲ以テ至当ナリトセリ(治罪法ニハ既ニ此事  
ヲ記載セリ)〇太陽ノ出没スル時刻ハ日毎ニ  
同様ナラズト虽モ別段差支ヘアラサルナリ  
日々其時刻ヲ認ムルニ容易ナル可シ且ツ夜  
令ニ雨天ニシテ太陽ノ在ル所ヲ認ムルヲ能  
ハサル場合ト虽モ略ホ其出没ノ時刻ヲ知ル  
ニ困難アラサル可シ  
且ツ昏記局ノ吏員カ朝夕ニ拘ラス燈火ヲ点ス  
ルヲ要セズシテ其証昏ヲ記シ得シ場合ニ於テハ  
正ニ法律ニ適當セルモノト云フ可キナリ  
此法則ハ後日訴訟法ノ總則中ニ之ヲ記入ス  
ルヲ得可シ

才二十五条〇昏記又ハ其補官差押ヲ行フ为メ



＝其現場ニ至リタル時其家屋ノ入口ヲ皆ナ閉  
テラアルカ又ハ家中ニ立入ルヲ拒ム者アル  
場合ニ於テ若シ其財産ヲ欺隱スル恐レアルニ  
於テハ各出入口ニ番人ヲ置クヲ得可シ然ル  
後右ノ各記等ハ其地方ノ警察使若クハ其他ノ  
警察長ニ請求スルカ又ハ此等ノ吏員アラサル  
時ハ其地方ノ郡区長ニ請求シ以テ其家屋ノ内  
外ニ在ル出入口及ヒ閉テタル動産物等ヲ開ラ  
カシムル為メニ立會ヲ為サシムルヲ得可シ  
(才五百八十七条才五百九十一条)  
差押ノ調各ニハ總テ右等ノ事柄ヲ附記スルヲ  
要ス且ツ右ノ請求ヲ受ケタル吏員ハ各記ト共  
ニ已レノ姓名ヲ手署ス可シ

平条ノ規則ハ悉シク細密ニ規定アルヲ故ニ  
別段長キ説明ヲ為スニ及ハス○義務者自ラ  
抵抗シテ其差押ノ妨碍ヲ為スニ當リテハ必  
ズ正当ノ手段ニ依リテ公力ノ助ケヲ要シ以テ  
之ヲ制セサル可カラスト云フハ素ヨリ論ヲ  
俟タサルナリ  
各記又ハ其下級ナル吏員ハ皆自ラ公力ヲ要  
ムルヲ得可シ如何ナレハ其執行力ヲ自ス  
ル証各ニ關スル場合ナルカ故ナリ  
第二十六条○前条ニ規定アル場合ノ外ニ於テ  
各記其差押ヲ受ケタル本人其家族又ハ其家僕  
等ヲ家中ニ見出サ、ル時又ハ右等ノ者其家中  
ニ在リト雖モ其者幼者ナルカ婦人ナルカ不具



者ナルカ若クハ病者ナル時ハ証人二名ノ立會  
ヲ請求スルヲ得可シ而シテ此証人ハ右ノ昏  
記ト共ニ自己ノ姓名ヲ調昏ニ手署スルヲ要ス  
此場合ニ於テハ其調昏ノ写ヲ郡區長ニ渡ス可  
シ

前条ノ場合ニ於テハ出入口ヲ閉ク為メニ請  
求ヲ受ケタル警察長又ハ郡區長ハ自ら其差  
押ヲ行フニ付キ立會ヲ為シ且ツ其調昏ニ自  
己ノ姓名ヲ手署セリ

若シ又右等吏員ノ立會ヲ要スルニハ至ラズ  
ト虽氏昏記其家中ニ於テ義務者ヲ見サレ時  
又ハ其家族ノ者若クハ家僕等ヲ見サレ時又  
ハ此等ノ者アリト虽氏婦人ナルカ若クハ幼

者ナル時ハ法律ハ依リニ其差押ヲ受ケタル  
者ニ代ハラシムル為メニ証人二名ノ立會ヲ  
為サシメシトヲ定メタリ

但シ調昏ノ写ハ右ノ証人ニ渡スニ非ス必ス  
其地方ノ郡區長ニ之ヲ渡ス可シ

第三十七条〇差押ハ大概之ヲ行フ事由ニ比適  
ス可キ價額ヲ有スル物件丈ケニ之ヲ限ル可シ  
其家中ニ現存シテ差押フルヲ得可キ總テノ諸  
件ヲ悉皆差押ヘルニ及ハサル時ハ差押ヲ受ケ  
タル者其差押ヲ行フ可キ物件ヲ自ら選定スル  
トヲ得可シ

權利者ノ充分満足ス可キ限度ヲ超過シテ根  
拠ニ乏クノ財産ニ付キ差押ヲ行フ時ハ必ス



其義務者ノ為メニ不都合ナルノミナラズ推  
利者ノ為メニモ亦更ニ其要益アラサル可シ  
○單ニ或ル財産ノミニ限りテ其差押ヲ為ス  
可キ場合ニ於テ其差押ヲ可キ物件ヲ選定ス  
ルノ権ヲ義務者ニ授クルハ固ヨリ当然ノ事  
ナリ義務者ハ必スシモ其差押ヲ可キ物件ヲ  
指示セサルモ自ラ保存シ置カント欲スル物  
件ヲ指定スルモ可ナリ

第二十八條○家中ニ在ル總テノ物件ニ付キ差  
押ヲ行フ時第十四條以下法則ニ因リ差押ヲ可カ  
ラスト定メテレタル物件ノ一個又ハ數個アル  
ニ於テハ之ヲ其差押ヲ受ケタル者ニ残シ置キ  
タル者ヲ調停ニ附記ス可シ

法律ハ本條ニ於テ登記カ差押ヲ可カラサル  
モノトシテ其義務者ノ手ニ残シ置キタル諸  
件ヲ明示セシムルヲ望メリ○蓋シ之ヲ為ス時  
ハ一面ニ向テハ宜シク法律ノ規則通りニ如  
置ヲ施シタルトテ知ラシムルニ便ナリ又他  
ノ一面ニ向テハ第十四條第十五條及ニ  
第十九條ノ規則ニ因リ既ニ利益ヲ得タル義務  
者カ第十九條及ニ第十八條ノ規則ニ因リ尚  
ホ自ラ其價額ヲ保有セシト述フルトテ防リ  
ニ至ラン

第二十九條○差押ヘタル物件ノ大要ヲ記示ス  
ルヲ要ス商品飲食物等ハ悉ク其性質ニ從ヒ之  
カ重量ヲ示シ之カ量數ヲ示シ又ハ之カ長短ヲ



記載ス可シ(第五百八十八条)

若シ其中金高号ノ現在スル時ハ其種類係ニ其  
隻数ヲ美定シ置ク可シ

昏記ハ右号ノ諸件ヲチートルヲホルツクール

(所持人手形)珍重物及ニ其他ノ貴重ナル物品ト

共ニ箱類又ハ其他鍵ヲ以テ出シ入レル品物

ノ中ニ入レ置ク可シ而シテ昏記ハ其箱等ニ封封

印ヲ为シ且ツ其鍵ヲ保存ス可シ

又昏記自ラ要用ナリト思考スル時ハ右号ノ物

件ヲ悉ク引取り以テ之ヲ昏記局ニ附託スルヲ

得可シ

總ニ差押ヘタル諸件ハ之カ賣拂ヲ行フニ至

ル迄其場所ノ以外ニ持出ス可カラサルカ故

ニ法律ハ殊更ニ其高ヲ減少セサル为メ又其

品物ヲ取換ヘサル为メニ要用ナル相当ノ方

法ヲ設定セリ

就中金高及ニ其他重要ナル品物ニ付テハ最

モ其注意ノ綿密ナラニテ要用スルナリ

第三十条〇昏記ハ差押ヲ为シタル後其差押

タル物件ノ番人ヲ定メ置ク可シ但シ其差押ヲ

受ケタル本人其家族ノ中一人又ハ其家僕ノ中

一人ヲ以テ右ノ番人ト为スルヲ得

真正ニ資力ヲ有セサル者又ハ官廳ノ吏員タル

者ハ其差押ヲ受ケタル者及ニ差押人ノ承諾ヲ

ルカ又ハ昏記自ラ其責ヲ擔当シタル以上ニ非

サレハ之ヲ差押ノ番人ト为スルヲ得ス



何レノ場合トモ雖モ差押人其四等親ニ至ル迄ノ  
血屬親又ハ姻族親及ヒ其家僕等ハ必ス差押ヲ  
受ケタル者ノ承諾ヲ得タル以上ニ非カレハ之  
ヲ右ノ番人ト為スルヲ得ス  
洞昏ニハ必ス其番人ノ姓名及ヒ身分ヲ附記ス  
可ク且ツ若シ之ニ付テ承諾ヲ要メタル時ハ其  
旨ヲ附記ス可シ

差押一タル物件ニシテ直ニ取去ルテ能ハス  
且ツ直ニ賣拂フテ能ハサル物件ハ必ス之ヲ  
或ル番人ニ委託スルヲ要スルテリノ法律  
ハ此点ニ関シテハ其差押ヲ受ケタル本人其  
者ノ家族及ヒ其者ノ家僕等ヲ信任シテ敢テ  
危疑セサルヲナリ蓋シ差押一ラレタル物件ヲ

自ラ看守ス可キ任ヲ受ケタル者カ他ニ之ヲ  
欺隠スル場合ノ為メニハ刑法上殊更ニ其罰  
ヲ定メアルカ故ナリ是レ右等ノ者トモ雖モ等  
ニシテ其差押ノ看守ニ任セラル、トヲ得可シ  
ト規定アル所以ナリ且ツ此等ノ者ヲシテ其  
看守ヲ為サシムル時ハ大ニ事ヲ簡便ナラシ  
ムルヲ便メルノミナラズ其入費モ亦徒ラ之  
ヲ節約スルヲ得ルニ至ラン○去レトモ實際  
ニ於テ右等ノ者ヲシテ看守ヲ為サシムルト  
否レハ全ク其昏犯ノ自由ニ在リトモ故ニ昏  
犯ハ事宣ニ因リテ他ノ者ヲシテ其看守ヲ為  
サシムルモ敢テ差支ヘララサシムナリ  
去レトモ法律ハ昏犯カ其看守ヲ選定スルニ



付キ多少ノ制限ヲ為セリ即チ看守ニ任スル  
ニハ必ス資力アルトノ分明ナル者ニ限ル  
云フノ制限是レナリ左レハ無資力ナルト  
分明ナル者ハ素ヨリ論スルニ及ハス資力ノ  
有無疑ハモキ者ノ、如キハ敢テ其看守ニ任  
ス可カラサルナリ

若シ其資力ノ有無到明ナラサル時ハ官廳ノ  
吏員ヲ選シテ其看守ノ任ニ當ラシムルヲ  
要スルナリ吏員ハ皆ナ行状ノ宜シキモノナ  
ル可キカ故ニ取テ限リニ其物件ヲ欺隱セ  
カ如キ恐レハラサルナリ  
右ニ示シタル二個ノ条件中何レナリトモ其  
一ニ從テ看守ヲ定ムルニ能ハサル場合ニ在

リテハ差押ヲ受ケタル者ノ兼諾ト差押人ノ  
兼諾トヲ得タル上ニテ其看守ヲ定ムルヲ  
得可シ又昏記自ラ其責ヲ擔當シテ看守ヲ任  
スルモ可ナリ但シ昏記殊更ニ其責ヲ擔當ス  
ヘキ者ヲ定メ置キタル時ハ勿論及令ニ之ヲ  
定メ置カサル場合ト虽モ法律ニ記載アル要  
件ヲ守ラザリシキハ当然其責ニ當ラサルヘ  
カラス  
又差押人若クハ其者ノ家族或ハ其者ノ家僕  
中一人ヲ選テ其看守ニ任スル場合ニ於テハ  
法律ノ規則尚ホ一層嚴ナル所アリ○右等ノ  
者ヲシテ看守ヲラシムルニハ必ス其差押ヲ  
受ケタル者ノ兼諾アラシムルヲ要スルナリ是



レ敢テ其物件ヲ欺隠スルノ憂アルカ为ノニ  
非ズ且ツ其差押人ノ資力アルト判然タル場  
合モアラシ又差押人自ラ公ケノ官吏タル場  
合モアラシ別ニ理由アルガ为ノニ然ルナリ  
即チ若シ差押ヲ受ケタル者ノ兼諾ヲ待タス  
シテ其差押人ヲ選テ着守ニ任スルトテ許ス  
キハ必ズ其差押ヲ受ケタル者ヲシテ益々憤  
激セシケルニ至ルヲ免カレズト云フノ理由  
是ナリ蓋シ差押人ト差押ヲ受ケタル者トハ  
常ニ相敵視スルモノナルカ故ニ若シ差押人  
ヲ選テ直ニ其着守ニ任スルニ於テハ必ズ其  
差押ヲ受ケタル者ノ怒ヲ増スニ至ラン  
本条ノ末項ニ記載アル法則ハ別ニ之ヲ弁明

スルヲ要セズ右ノ諸件ヲ更ニ調査ニ記シテ  
証明ス可シト云フハ素ヨリ論ヲ待タズシテ  
明ナリ

第三十一条〇若シ一日内ニ差押ヲ为スト能ハ  
サルキハ昏記其財産ヲ欺隠スルトテ防ク为ノ  
ニ翌日ニ至ル迄假リノ着人ヲ定メ置クヘシ但  
シ其差押ノ調査ヲ記スルトテ中絶シタル所ニ  
其旨ヲ附記スルヲ要ス

本条ニ於テ法律ハ別ニ假定ノ着人ヲ定ムル  
ニ当リテモ亦等シク確定ノ着人ヲ定ムル場  
合ト同様ナル条件ヲ守ルヘシトハ明言セサ  
ルナリ〇去リナカラ假定ノ着人ヲ定ムルニ  
ハ等シク確定ノ着人ニ関スル条件ニ循ハサ



ル可カララスト云フヲ以テ一般ノ原則ト为カ  
、ルヘカラス但シ其資力ノ事ニ関シテハ必  
シク容捨スル所アルモ敢テ差支ヘアラカル  
ヘシ

第三十三条〇差押ヲ受ケタル者又ハ其家族ノ  
中重立タル人ニシテ其差押ヲ为スル現ニ在リ  
タル者ハ其調昏ニ已レノ姓名ヲ手署スヘキ求  
ノフ受クヘシ但シ右等ノ者之ヲ拒否スルカ又  
ハ之ヲ为スル能ハカルハ必ス其旨ヲ附記ス  
ルヲ要ス

又差押ヲ受ケタル者ハ既ニ処置セラレタル事  
柄ニ付テ異議ヲ述ヘ或ハ総則ニ定メアル場合  
ニ於テハ故障ノ申立ヲ为スルヲ得可シ

差押ヲ受ケタル本人現在スル所ハ之ニ其調昏  
ノ字ヲ渡スヘシ若シ其現在セサルハ右ノ字  
ヲ以テ其者又ハ其者ノ住所ニ告知ヲ为スヘシ  
抑モ差押ナルモノハ常ニ其差押ヲ受ケタル  
義務者ニ對シテ之ヲ行フカ故ニ之ニ告ケテ  
其調昏ニ已レノ姓名ヲ手署スヘキ求メヲ为  
スハ実ニ至当ノ処分ナリトス但シ其義務者  
カ自ラ之ヲ好マサルニ因リ調昏ニ已レノ姓  
名ヲ手署スルヲ拒クキハ止ヲ得サルナリ  
〇又差押ヲ受ケタル者ハ処置ノ濟ミタル事  
柄ニ付テ自ラ異議ヲ唱ヘ或ハ総則ニ定メア  
ル場合ニ於テハ故障ノ申立ヲ为スルヲ得可  
キナリ



其他家中ノ者ハ唯自己ノ申述スル意見ヲ記  
入セシケルト得ルノミナリトス  
調卷ノ写ハ特ニ其差押ヲ受ケタル本人ニ限  
リテ之ヲ渡スヲ要スルノリ其本人が不在ニ  
シテ他ノ者が現ニ在ル場合ト虽決シテ其  
他ノ者ニ右ノ写ヲ渡スヘカラス如何トナレ  
ハ若シ差押ヲ受ケタル本人が現ニ其差押ヲ  
行フ場所ニ在ラサルキハ必ス之ヲ其者ノ住  
所ニ送達スヘキカ故ナリ  
去リナカラ若シ差押ヲ受ケタル者ノ住所ニ  
於テ其差押ヲ行フニ当リ本人不在ナルキハ  
常例ニ縮ビ其旨ヲ附記シタル上右ノ写ヲ其  
家中ノ者ニ渡スト得ヘシ

番人ニハ別段写ヲ渡ストテ要セズ如何トナ  
レバ番人其諸件ノ散乱セサル様首子ヲ為ス  
ニハ必スシニ差押ヘラレタル物件ト差押ト  
ナラサル物件トヲ自ラ詳知スルニハ及ハサ  
ルカ故ナリ  
但シ若シ其差押ノ中ニ総テノ動産物ヲ含包  
セサルキハ差押ヲ受ケタル者ハ其証拠ヲ番  
人ニ明示シテ以テ差押ノ中ニ加ハラサル物  
件ヲ他ニ引取ルト得可シ  
第三十三条〇左ノ場合ニ於テハ昏記自ラ其責  
任ヲ擔當シタル上其差押ヲ停止スルカ又ハ之  
ニ拘ハラス其差押ヲ為ストテ得ヘシ  
第一 昏記差押ヲ行ハントスルキ其家中ニ在



ル者其差押ヲ受ケタル者ノ住所又ハ寄留所ハ  
此家ニ非サル旨ヲ述ヘタルカ又ハ其所ニ在ル  
或ル動産物ハ右ノ差押ヲ受ケタル者ニ属セサ  
ル旨ヲ述ヘタル場合

第二、被告人ヨリ原告人ノ姓名ヲ手署シタル  
証唇ヲ差出シタルニ因リ之ニ拠リテ其訴訟ノ  
原由カ既ニ消滅シタル証アルカ又ハ原告人ノ  
右証唇ニ姓名ヲ手署スルルル及ヒ調印ヲ為スル  
ニ至今ヲ為シタル証人ニ名ニテ其証唇ノ真正  
ナルヲ確証シタル場合

第三、欠席裁判ノ言渡又ハ始審裁判ノ言渡ヲ  
受ケタル被告人未ダ法律上ノ期限内ニ在リテ  
其故障ヲ申立レト述ヘタル場合

唇記自ラ其責ヲ擔當セル場合タリト虽已  
レニ処分方ヲ任セラレタル差押ヲ振リニ停  
止スルヲ得ルカ如キハ敢テ法律ノ許ルス可  
キ所ニ非サルナリ  
去レトモ本条ニ記列セル三個ノ場合ニ於テ  
ハ差押ヲ為スヘキ充分ノ理由アラズト云フ  
ノ疑アリ且ツ差押人ヲシテ漫リニ号額ノ入  
費ヲ擔當セシムルニ至ランカト云フノ恐レ  
アリ  
第一ノ場合及ヒ第二ノ場合ニ於テハ唇記宜  
シク其申立ヲレタル事實ノ信偽ヲ考察スヘ  
ク又第三ノ場合ニ於テハ唇記詳カニ其故障  
申立ノ当否ヲ調査ス可シ



昏記右等ノ処置ヲ拖スニ當リテ違々重大ナル過失ヲ生シタル場合ニ於テハ自ラ其責ニ任スヘキ義務アリト云渡サル、一有ルヘシ  
第三十四条○前条ニ記載アル第一及ヒ第二ノ場合ニ於テ故障ヲ申立タル者其附属吟味ヲ為サシケル為ノニ三日間ニ昏記局ヲ經テ其土地ニ在ル民事裁判所ニ差押人ヲ呼出サ、ル時ハ直ニ右ノ停止ヲ解キ以テ其差押ヲ執行スヘシ  
第三ノ場合ニ於テハ故障ノ申立又ハ控訴ハ其裁判ヲ言渡シタル裁判所ノ昏記局ニテ八日以内之ヲ更新スルヲ要ス且ツ其訴訟ヲ為ス昏記ニ其理由ヲ詳明スヘシ  
昏記其差押ヲ停止スヘキ事由ヲ觀察スルハ

全ク假リノ処分タルニ過キス故ニ此附属吟味ニ付テハ裁判所ニテ必ス確定ノ判決ヲ下サ、ルヘカラス  
故障ノ申立人ハ右ノ判決ヲ得ンテ法定ノ期限内ニ要求スヘシ否ラサレハ其推ヲ失スヘキナリ  
第三十五条○若シ差押ヲ為ス時其被告人又ハ其他ノ者ヨリ其家中ニ在ル物件ノ中一個又ハ數個カ差押ヲ受ケタル者ニ属セサルニ因リ之ヲ他ノ物品中ヨリ引去ランテヲ要求シタル場合ニ於テハ昏記其申立タル証拠ノ性質ニ因リ又ハ其事實ノ推測ニ從ヒ右ノ要求ヲ免許スルカ或ハ之ニ拘ハラス其差押ヲ為スヘキヲ得ヘシ



本条ニ記載スル場合ヲ以テ彼ノ差押ヲ全ク停止  
スヘキ場合ニ比スレハ其状大ニ輕キ所アリ是レ  
本条ニ於テハ法律カ一層大ナル權利ヲ登記ニ授  
ケキ其事実ヲ考察セシムル所以ナリ  
本条ニハ別段登記ノ擔當スヘキ責任ノ事ヲ  
明示セズト虽モ重大ナル過失アリニ於テハ  
必ス自ラ其責ニ當ラサルヘカラス是レ蓋シ  
名代ニ関スル一般ノ原則ニ因リテ然ルナリ  
第三十七條○他人ハ仮令ヒ差押ヲ為シタル後ト虽モ其財産  
ヲ賣拂フキニ至ル迄右ニ定ノアル如ク引去リノ要求ヲ為ス  
テ得可ク又賣拂ヲ為シタルキト虽モ差押人ニ其金高ヲ渡  
スニ至ル迄右ノ要求ヲ為ス  
テ得ヘシ但シ糶賣ノ買受人  
人ハ之カ為メニ取戻ノ訴ヲ受クルル  
ト無カルヘシ

凡ソ他人ニ属スル財産ノ所有權ハ仮令ヒ其  
動産ニ関スルモノト虽モ其差押ヲ行フキニ  
當リテ之ヲ詳明マサルカ又ハ之ヲ申立サリ  
シト云フノ理由ヲ以テ妄ニ失却スヘキモノ  
ニ非ズ故ニ法律ハ賣拂ヲ行フニ至ル迄之ヲ  
其所有者ノ為メニ維持セシムルヲ欲スルナリ  
且ツ仮令ヒ賣拂ヲ為シタル後ト虽モ未タ差  
押人ノ手ニ其得タル代金ヲ引渡サ、ル間ハ  
所有者自ラ其金高ニ付テ已レノ權利ヲ行フ  
トヲ得可シ  
然レモ既ニ差押人ノ手ニ收受シタル代金ト  
虽モ前ノ所有者ヨリ之ヲ要求スルヲ得可シ  
ト云フハ余リ度外ノ処分ナリト思ハル  
(此場



合ニ於テハ差押人ク元來受取ルヘカラハ  
モノヲ收受シタル事實アリト云フヲ得ル  
ニモセヨ假シ之ヲ允許スルニ於テハ差押人  
ヲシテ圖ラス其義務者ト他人ト力通謀シテ  
行ヘル詐偽ニ陷ラシムルノ弊ナキヲ免カレ  
ズ義務者ハ已レニ属セサル財産ヲ残シテ差  
押ヲ為サシノ以テ自己ノ有スル諸件ハ他ニ  
之ヲ欺隱スルニ至ラン而シテ之レト通謀セ  
ル他人ハ後々差押人ノ最早擔保ヲ得ルノ道  
ナキニ至ルヲ待テ其物件ノ代金ヲ已レニ返  
還セシムルナラン

第三十七條○財産ノ引キ分ケノ要求ヲ為ス場  
合ニ於テハ第三十何條ニ定ノアル如ク決定ヲ

下ヤシムル為ノニ故障申立人ヨリ三日内ニ其  
差押人ヲ管轄裁判所ニ呼出サシム可シ但シ此  
規則ニ背リ時ハ引続テ其差押ヲ行フヘシ  
財産ノ引分方ヲ要求スルト虽モ成ルヘク短  
キ期限内ニ之ヲ有効ヲラシムル為メニ更ニ  
請求ヲ為サ、ルニ於テハ無理ノ要求ナルカ  
又ハ其差押ヲ受ケタル者ト通謀シテ為シタ  
ル要求ナリト云フノ疑アリ  
第三十八條○差押ヘラレタル物件ノ中一個又  
ハ數個ニ付キ未分ノ權利ヲ有スルト申立ル他  
人ハ其賣拂ニ因リ得タル代金ニ付キ已レノ權  
利ヲ兼計センテ兼諾スルヲ得ヘク又其物  
件カ分派スルヲ得ヘキ性質ヲ有スルハ賣拂



ヲ為ス前ニ豫メ其分派ヲ行ハシテヲ要求スル  
ヲ得可シ

唯其差押ヲ受ケタル者ト共ニ未分ノ所有權  
ヲ有スル旨ヲ申立ル他人ハ事宜ニ因リテ其  
終現物ノ分派ヲ要求スルカ又ハ賣拂ニ因リ  
得ル所ノ代金ノ一部ニ付テ其權利ヲ行ハン  
ト述フルヲ得ヘシ

第三十九条〇登記第一ノ差押ヲ為シタル後新  
ニ發願シタル原因アルニ因リ同一ノ差押人ノ  
為ノ又ハ他ノ差押人ノ為ノニ同一ノ財産ニ付  
テ第二ノ差押ヲ行フヘキ要求ヲ受ケタルハ  
唯其要決層ヲ為シ且ツ第一ノ差押ヲ証明スル  
調層ヲ記スルノミヲ以テ足レリトス

差押フヘキ物件カ尚ホ別ニ存在スルハ登記  
之ヲ差押ヘ以テ前キニ足ノアリ番人ニ之ヲ委  
託スヘシ但シ第何条ニ定メアル条件ヲ右ノ番  
人カ履行セサルハト虽モ亦右同様ナリトス  
同一ノ推判者ニ関スル場合タルト相異ナリ  
タル二人ノ推判者ニ関スル場合タルト問  
ハズ同一ノ財産ニ付テ二個ノ差押ヲ為スハ  
余リ過當ノ処分ナリトス〇最初ニ行フタル  
差押ニ因リ既ニ其物件ノ散乱セサル方法ヲ  
施シタル以上ハ最早ヤ之ヲ以テ他ノ推判者  
ノ權利ニ至ル迄充分保護スルニ足レヘシ  
但シ最初ノ差押カ無効トナリタル場合又ハ  
義務ノ弁済ヲ行フタルニ因リ最初ノ差押カ



無要ニ帰シタル場合ニ於テハ必ス更ニ其新  
タナル差押人ノ権利如何ニテ調査スルヲ要  
スルナリ是レ要決ノ番并ニ最初ノ差押ヲ証  
明スル調査ヲ記スルヲ必要トスル所以ナリ  
嘗テ差押ヘラレサル財産アルニ於テハ更ニ  
之ヲ差押フルヲ得ヘシト云フハ素ヨリ論  
ヲ俟タカレナリ而シテ法律ハ敢テ二個ノ番  
人アルヲ必要ナリトセズ唯前キニ定メタ  
ル番人ヲシテ其番守ヲ為カシムヘキ旨ヲ命  
スルノミニ止マレリ

或ハ第一ノ番人ハ更ニ差押ヲ為シタル財産  
ニ付テハ法律上ニ規定アル要件中ニ在ラカ  
レトモアラシ剛ヘハ其番人自ラ第二ノ差押  
人トナリタル場合ノ如キ是レナリ或リナカ  
ラ既ニ番守ニ任セラレタル番人カ更ニ自ラ  
差押人トナル場合ニ於テハ敢テ差押人ヲ  
テ番守トナラシムヘカラズト定メアル場合  
ト同様ナル理由アリト為ストヲ得ス將々少  
シク其同一ノ理由アリトスルモ彼場合ト此  
場合トハ其理由ノ勢力ニ於テ大ニ輕重ノ差  
異アリ

第四十条○前条ニ記定アル二個ノ場合ニ於テ  
ハ新ノ差押アル旨ヲ其差押ヲ受ケタル者及ヒ  
最初ノ差押人ニ告知スヘシ  
若シ最初ノ差押人其差押ヲ止メタルカ又ハ其  
賣拂ノ期限ヲ延ハスヲ允許シタルキハ新ノ



差押人ハ別段其代位ノ権ヲ得ルヲ要セスシテ自己ノ名義ニテ其賣拂ヲ為サシメルヲ得ヘシ

差押ヲ受ケタル者又ハ最初ノ差押人ヲシテ新ノ差押アルヲ知ラシムルハ素ヨリ必要ノ事ナリ之ヲ為ス時ハ一面ニ向テハ差押ヲ受ケタル者ヲシテ及令ヒ最初ノ差押人ノ意ヲ満足セシムルノ処分ヲ施スト虽モ其財産ハ尚ホ自由ニ為スト得ヘキモノニ非サル旨ヲ知ラシムルニ至ルヘク又他ノ一面ニ向テハ最初ノ差押人ヲシテ其差押ヲ止ムルト及ヒ其差押ヘタル物件ノ賣拂ヲ延ハストハ最早ヤ已レノ隨意ニ為シ得可カラサルトヲ

知ラシムルニ至ル可シ

第四十一条〇新ニ差押ヘタル物件ハ最初ノ物件ト共ニ之ヲ賣拂フヘシ但シ第四十三条ニ規定アル八日ノ期限ヲ守ルヲ能ハサル場合ト虽モ亦右同様ナリトス然レモ新タニ差押ヲ為シタル物件ノ價額カ最初ニ差押ヘタル物件ノ價額ヲ超過スル時ハ第二ノ差押ハ第一ノ差押ニ之ヲ合併ス可ク且ツ番人ノ身分ニ関シテ定メアル条件及ヒ賣拂ノ為メニ定メアル期限等ハ悉ク之ヲ守ルヘシ差押ヲ為シタル時ヨリ其賣拂ヲ為ス時ニ至ル迄ハ必ス之ヲ公示スルノ方法ナカラサルヘカラス故ニ法律ハ後ノ箇条ニ於テ其



差押ト其賣拂トノ間ニ八日ノ時間アルヲ  
要スル旨ヲ規定セリ○漸次ニ二個ノ差押ヲ  
為シタル場合ニ於テハ唯一度ニ賣拂ヲ為ス  
ヲ以テ至当ノ処分ナリトス○此ノ如キ場合  
ニ於テハ先ツ第二ノ差押ニ付テ要スル八日  
間ノ期限ヲ廢止スルヲ以テ一般ノ規則ト為  
ス去レトモ若シ第二ノ差押カ第一ノ差押ヨ  
リ一層重要ナル場合ニ於テハ第二ノ差押ニ  
付テ要スル八日間ノ期限ヲ經過スルニ至ル  
迄第一ノ差押ヲ遅延スルヲ有ル可シ  
番人ノ身分ニ関スル諸事ノ条件ニ付テモ亦  
右同様ノ規則ニ循ハサルヘカラズ若シ最初  
ノ番人が第二ノ差押ニ付テ法律上定ノアル

条件中ニ在ラサル時ハ更ニ新ノ番人ヲ選定  
スルヲ要スルナリ

第四十二條○若シ昏記其被告人ノ住所ニモ又  
其原告人ヨリ指示シタル場合ニモ一モ差押ヲ  
為スヘキ物件ヲ見付ケサル時ハ其財産ノアラ  
カル旨ヲプロセウエルバールド、カランス、ウー  
ド、子アント称スル調昏ニ記ス可シ  
若シ又第何条ニ因リ差押ヲ受ケタル者或ハ其  
家族ノ者ニ残シ置クヘキ物件アル時ハ必ス亦  
其旨ヲ附記スヘシ

附言○佛蘭西ニ於テ用井来リタル「カラン  
ス」ナル語ハ雅典ノ「カレ、」ナル語ヨリ移  
リ傳ハリタルモノナリ蓋シ「カレ、」ナル



語ハ佛蘭西ノ「マンケール」ナル語ト同義ナリ  
「マンケール」トハ即チ欠無ト云ヘル義ナリ  
若シ義務者ノ住所ニモ又其差押ノ為メニ指  
定シタル場所ニモ一モ差押フヘキ物件ノア  
ラサル時ハ必ス調昏ニ其旨ヲ附記スルヲ要  
スルナリ然ラサレバ昏記正シク其職務ヲ執  
行シタルヤ否ヤヲ知ルニ難カルヘシ  
又差押フヘカラサルモノトシテ其義務者ノ  
所ニ残シ置キタル物件ヲ調昏ニ附記スル  
ヲ要スルト定メタルハ即チ昏記カ自ラ正確  
ニ其義務ヲ執行シタルヲ知ラシメシカ為  
メナリ

第四十三條○要益ナル差押ヲ為シタル時ハ昏

記其賣拂ヲ為ス目ヲ調昏ニ指示スヘシ差押ヲ  
受ケタル者ヲ現ニ在ル時ニ之ヲ行フタル場合  
ニ於テハ其時ヨリ八日以内ニ右ノ日ヲ定ムヘ  
カラズ又其者ノ現ニ在ラサル時ニ差押ヲ行フ  
タル場合ニ於テハ本人若クハ其住所ニ告知ヲ  
為シタル時ヨリ八日以内ニ右ノ日ヲ定ムヘカ  
ラス  
差押ヲ為シタル時ヨリ其賣拂ヲ為スニ至ル  
迄ニ八日間ノ時間ヲ定メ置クノ必要ナル  
トハ既ニ前段ニ之ヲ解ケリ是レ蓋シ其賣拂  
ヲ行フ為メニ要スル充分ノ公示ヲ為カレカ  
クメナリ  
若シ差押ヲ受ケタル義務者が現ニ在ラサル



時ハ必ス其告知ヲ為シタル日ヨリ以來右ノ  
期限ヲ算スルヲ要ス

此ノ如リスル時ハ其義務者モ亦自ラ右ノ公  
示ニ因リテ賣拂ノ模様如何ンヲ了知スル  
ヲ得ルナラン買主タル者ノ数多キハ從テ  
其得ル所ノ代金モ亦多カルヘシ畢竟買主ノ  
多クニ從テ其義務ヲ免カル、ノ度ニ差異ア  
ル可シ

第四十四条○賣拂ハ唇記又ハ其補官中ノ一人  
ニテ公然糶賣ノ方法ヲ以テ之ヲ行フ可シ  
右ノ賣拂ハ其差押ヲ受ケタル者ノ住所ニテ之  
ヲ行フカ又ハ此等ノ賣買ヲ為スニ付キ豫テ行  
政上ニテ定メアル場所ニテ之ヲ行フヘシ

右ノ賣拂ハ祭日ト虽氏之ヲ為ス、トテ得ヘシ  
右賣拂ノ事ハ區役所郡役所治安裁判所ノ門前  
及、其賣拂ヲ行フヘキ場所ニ以テナクトモ二日  
間以前ヨリ揭示ヲ為シテ之ヲ廣告スヘシ  
且ツ其地方ニ一ノ新聞紙アル時ハ之ニモ亦其  
廣告ヲ為スヘシ

本条ノ規則ニ付テハ別段説明ヲ下スニ及ハ  
カル者ト思考ス  
唯爰ニ一ノ注目スヘキ点アリ即チ通常ノ訴  
訟ニ関スル諸件ハ概シテ祭日ニ之ヲ為ス、  
ヲ禁スル規則ナリト虽氏本条ノ法則ニテハ  
祭日ヲリトモ尚ホ其賣拂ヲ行フ、丁ヲ允許シ  
タル、是ナリ是レ蓋シ製造ノ盛ナル都府就



中鄙僻ノ間ニ在リテハ其製造者クハ耕業ヲ  
休息シタル日ニ當リテ適ク買主ノ多クヲ得  
ルノ望ミアルカ故ナリ

第四十五條○若シ金銀ニテ細ユシタル物品又  
ハ寶石等ノアル時ハ鑑定人ノ評價シタル真價  
ヲ明細ニ示シタル上特別ノ附記ヲ為シテ其掲  
示ヲ行フヘシ  
右等ノ品物ハ其評定シタル價ヨリ以下ニ糶賣  
スルヲ得ス但シ若シ其價ヨリ以下ニ之ヲ賣拂  
フタル時ハ昏記其差押人及ヒ差押ヲ受ケタル  
者ニ対シテ其責ニ任ス可シ

凡ソ金銀物及ヒ其他寶石類ハ常ニ其時世ノ  
代ハルニ因リ又ハ其場所ノ同シカラサルカ  
為メニ別段著シク変動セサル真價ヲ有スル  
モノナリ故ニ若シ此等ノ物件ヲ欲望セル多  
クノ買主ヲ得サルカ為メニ不当ノ廉價ヲ以  
テ之ヲ賣拂フニ於テハ必ス其關係人ノ為メ  
ニ大ナル損害ヲ醸スニ至ラン是レ掲示中豫  
メ為シタル評價昏ト共ニ特別ノ附記ヲ為ス  
可シト云フノ法則アル所以ナリ又昏記其真  
價ノ高ヨリ以下ノ直段ニ之ヲ糶賣スヘカラ  
スト云フノ禁制アルモ亦等シク右ノ理由ニ  
依リテ然ルナリ

第四十六條○賣拂ヲ為ス日ニハ昏記其差押ヘ  
ラレタル然テノ物件ノ有無ヲ取調ヘ(調昏ノ目  
録ト其物件トヲ照合スル事ナリ)タル上賣拂ノ



調書ヲ関キ以テ差押人ノ姓名、差押ヲ受ケタル者ノ姓名ヲ記載シ且ツ要決昏ノ日附、差押ノ日附、正当ニ執行シタル告知ノ日附及ヒ其法律ニ循テ行フタル揭示ノ日附等ヲ附記スヘシ  
賣拂ノ調書ニハ其賣拂フタル物件ハ何人ニ属シタルカ、又何人ノ訴ニ因リテ之ヲ賣拂フタルカ又如何ナル原由ノ為ニ之ヲ賣拂フタルカヲ細密ニ記載スルヲ要スルナリ是レ法律上其附記ヲ為ス可キ旨ヲ明定セル所以ナリ  
賣拂ヲ行フタル場所及ヒ日附ヲモ亦等シク其調書ニ記ス可シト云フハ素ヨリ論ヲ俟タサルナリ是レ差シ訴訟ノ諸件ニ関スル一般

ノ通則ナリ

第四十七条 ○賣拂ハ必ス其差押人ノ允許シテ之ヲ停止シタル時カ又ハ差押ヲ受ケタル者カ其差押ヲ為シタル總テノ原由ニ付キ充分ノ満足ヲ與ヘタルヲ記シタル証骨アル時ニ於テハ之ヲ止ムルヲ得ス  
若シ差押人カ現ニ在ラスシテ其差語ヲ為サ、ル時ハ其允許シタル賣拂ノ停止ヲ記シタル私証骨又ハ右満足ノ意ヲ表シタル私証骨ハ第三十三條ニ定メアル如ク証人ニ各ノ確認ヲ為シタル場合ニ於テハ之ヲ取上ケルヲ許ルカ  
一旦既ニ公示シタル賣買ヲ、<sup>買</sup>川延スルニハ必



ス重要ナル事由アラザル可カラヌ  
法律ハ之カ为メニ唯二個ノ事由ヲ允許スル  
ニ過キザルナリ一ハ差押人即チ主タル関係  
人ノ許可ニシテ他ノ一ハ其差押ノ関スル總  
テノ義務ニ付テ權利者ニ對シテ充分ノ満足  
ヲ与ヘタル旨ヲ記シタル上差押ヲ受ケタル  
者ヨリ差出シタル証抑ナリ  
差押ヲ受ケタル者カ差押人ニ對シテ其差押  
ノ関セザル他ノ義務ヲ負擔スル時ト虽モ此  
等ノ義務アルカ为メニ其財産ノ賣拂ヲ引延  
ス可キ阻害アリト为ス可カラヌ  
義務ヲ弁償シタル証抑ハ必ス其原告人ヨリ  
差出シタル証抑ヲ以テ之ヲ明示スルヲ要ス

散テ証人ヲ以テ其証抑ヲ为スルトナリ許ルル  
ス  
若シ又原告人ヨリ差出シタルモノナリト申  
立タル私成ノ証抑アル場合ニシテ且ツ賣押  
ノ引延ヲ申出タル請求ヲ为シタル時ニ原告  
人ノ現ニ在ラザルニ於テハ差押ヲ差止ムル  
場合ノ为メニ第三十三條ニ定メアル如ク  
必ス証人二名ニテ其原告人ノ手署シタル姓  
名及ビ調印ノ証ヲ为スルヲ要スルナリ  
第四十八條ニ鞆賣ノ買受人ハ總テ即金押ニテ  
其代金ヲ糸済ス可シ但シ登記自ラ其責ニ在リ  
テ之ニ猶豫ノ期限ヲ与ヘタル時ハ此限ニ在ラ  
ス



若し糶賣ノ買受人直ニ其代金ノ高ヲ拂フヲ能ハサル時ハ其物件ハ直ニ再糶賣ニ出ルカ又ハ賣拂ノ済ミタル後ニ再糶賣ニ出ス可シ而シテ再度ニ行フタル糶賣代金ノ高ハ最初ニ行フタル糶賣代金ノ高ニ達セサル時ハ高キ直段ニテ買受ケタル者(之ヲ「フタル、アンシエリツス」ト称ス蓋シ狂愚ナル買受人ト云フノ義ナリ)其代金ノ差ヲ拂フ可シ

一般ノ場合ニ於テハ差押ヲ受ケタル者及ヒ差押人ハ自ラ何人カ公賣ノ買受人トナリタルカヲ認知セサルト最モ多シトス尤レハ此賣買ハ決シテ賒拂ニシテ之ヲ為ス可カラズ又ス即金拂ナルトナリ得スルナリ

但し登記自ラ其買受人ノ資力アル者ナルトハ危疑セサルニ於テハ已レニ其責ヲ擔ギシタル上ニテ之ニ即時ノ弁済ヲ為スニ及ハサル者ヲ先許スルヲ得可シ  
差押人又ハ差押ヲ受ケタル者ハ互ニ協議スルト無クシテ別々ニ賒拂ニテ買取ルヲ得可キ所可ヲ与フルト能ハズ是レ敢テ法律ノ行ルガハル所ナリ但シ相互ニ協議ヲ為シタル上ニテ之ヲ認許スルハ敢テ法律ノ禁止ス可キ事ニ非サルナリ  
若し一ノ買受人カ其糶賣ノ代金ヲ即金ニテ弁済スルヲ能ハサル時ハ此者ヲ指シテ「フタル、アンシエリツス」トシ(狂愚ナル買受人ト



云フ義ナリト辨ス而シテ其物件ハ再糶賣。  
出し以テ損失アルニ於テハ右ノ者ヲニテ之  
ヲ擔當セシムルモノトス故ニ若シ再糶賣ニ  
テ得タル代金ノ高カ最初ノ糶賣ニテ定アリ  
タル代金ノ高ニ違セサル時ハ右ノ狂愚ナル  
買受人ニテ其差ヲ償補セサル可カラズ

第四十九条○此細ノ物件ハ直ニ之ヲ引渡ス可  
シ重ナル物件又ハ数多ノ物件ハ其賣拂ノ終  
ハリニ至リ之カ引渡ヲ為ス下ヲ得可シ

何人ノ利益ノ為メニ糶賣ヲ為シタルニ拘ハ  
ラズ其代金ハ又ス直ニ之ヲ糸済ス可シト云  
フノ規則ナルカ故ニ買受人モ亦即時ニ其物  
件ノ引渡アラントテ要求シ得ルモノハ如リ

ニ見ユルナリ去レトモ後シテ之ヲ許ル  
ニ時ハ為メニ益々繁雜ヲ極ムルニ至ラニ加  
之始終其賣拂ヲ中絶セサル可カラズ是レ實  
ニ不都合ノ至リナリ蓋シ賣拂ハ成ル可ク家  
人ノ退去セサル間ニ違カニ之ヲ終結スルヲ  
善シトスルカ故ナリ

然レ此些細ノ物件ハ他人ノ助力ヲ及ラス又  
荷車等ヲ要セスニテ買受人自ラ之ヲ取り去  
ル下ヲ得可キカ故ニ直ニ之ヲ引渡ストモ氏  
別段ノ差支アラサル可シ

第五十条○差押ヲ為シタル者一人アル場合ニ  
シテ且ツ其賣拂ニ因リ得タル金高ニ付キ他ノ  
権利者ヨリ別段故障ヲ申立サル時ハ登記先ツ



急遽吟味ニ因リ債却ヲ得サリシ入費ノ高ヲ引  
去リタル後其差押ヲ行フ可ト理由ニテ拂フ可  
キ高及ニ其差押人ノ前拂シタル入費ノ高ニ至  
ル迄其賣拂ニテ得タル金高ヲ直ニ右ノ差押人  
ニ渡ス可シ

若シ差押ヲ為シタル者数人アル場合ニシテ且  
ツ賣拂ニテ得タル代金カ其負債ノ全部ヲ償却  
スルニ足ラサル時ハ登記其割合分派ヲ為ス時  
ニ至ル迄右ノ金額ヲ登記局又ハ附託役署ニ由  
リ遣ク可シ

又不当ニ差押一ラレタル物件ノ代金ヲ引分ケ  
ンテヲ要求スル者アルカ又ハ其賣拂ニテ得タ  
ル代金ニ付キ故障ヲ申立ル権利者アル時ハ其  
要求又ハ故障申立ニ付キ決定ヲ為スニ至ル迄  
右同様ノ処分ヲ行フ可シ

若シ賣拂ニ因リ得タル代金ノ高千円ヲ超過ス  
ル時ハ必ス之ヲ附託役署ニ附託スルヲ要ス  
差押人一各アルノニ過キサル場合ニ於テ  
ハ登記其賣拂ニ因リ得タル金高ヲ自ラ貯存  
シ置ク可キ理由アラズ登記ハ唯己レノ受ク  
可キ賃料及ニ入費ノ高ヲ引去ルノニ止マ  
ル可シ

之ニ及シテ差押人数各アル場合ニ於テ其賣  
拂ニ因リ得タル金高ヲ以テ各差押人ノ權利  
ニ充ラルガノニ足ラサル時ハ必ス其權利ノ  
割合ニ准シテ配当ヲ為サ、ル可カラズ(第八



章ヲ參觀ス可也故ニ登記ハ悉皆ノ集計ヲ行  
ハシタル為メニ其金高ヲ保存シ置ク可シ  
又金高ヲ引キ分ケントテ要求セル者アル場  
合ニ於テモ亦右同様ナリトス  
本条末項ノ法則ニテハ登記カ金リ過分ノ金  
高ヲ登記局ニ貯一置クテニ付キ注意ニシル  
モノナリ是レ蓋シ盜難ノ恐レブルカ為メナ  
リ

第三章

船舶、船、艇、差押

(船舶法第百九十五條、佛七章第百九十五條)

茲ニ法律ハ相異ナリタル三個ノ語ヲ用キテ  
船舶ノ類ヲ指足スルトモ之ヲ以テ敢テ其  
間ニ大ナル區別ヲ為シテ敢テ之ヲ以テ非ス  
又之ヲ以テ敢テ其他ノ名称アル船舶ヲ取除  
カント圖リタルニ非ス  
何レノ同ニ於テモ海上若クハ川中ヨリ入或  
ハ物ヲ運送スルカメニ浮フル構造物ニハ常  
ニ種々ノ名称ヲ用フルナリ○此等ノ名称ハ  
或ハ其運轉ノ方法ヲ知ラシムルニ便ナリ即  
チ帆船船ト云ヒ蒸氣船ト云フカ如キ是ナリ  
又或ハ其大小ヲ指示スルナリ但シ其船類  
ノ大小ヲ指示スルニハ別段定マリタル通俗



語ヲテサレナリ○是故ニ船類ニ関スル法律又ハ航行ニ関スル法律中ニハ常ニ注意シテ種々ノ名称ヲ令セ記スルナリ又尚ホ詳悉ノ指定ヲ為サントスル時ハ其船噸數又ハ尺量ニ付テ之ヲ定メサル可カラズ即チ噸力、積力、運搬スルヲ得可キ商品ノ重量及ヒ大小其他吃水ノ尺量水分ニ代ハル量敵等ニ抛リテ之ヲ示ス可シ又逐流船ニ関スル時ハ其機械ノ力即チ馬力ニ付テ之ヲ知ル可キナリ

第五十一條 ○船、噸、噸、差押ヲ為スニハ必ず其執行力ヲ有スル証書アルヲ要ス且ツ豫メ其取替者ニ承済ヲ為ス可キ要項旨ヲ送達スルヲ必

要トス

本条ノ法則ニハ差押ノ有効ナルカ为メニ二個ノ条件ヲ要スル旨ヲ記載セリ是レ既ニ前段ニ於テ説明セシモノナリ即チ執行力ヲ有スル証書及ヒ要項ノ旨是レナリ法律上殊更ニ此条件ヲ要スル旨ヲ明記シタル所以ハ蓋シ一種特別ナル牽制ニ関スル場合ナルカ故ニ人ヲ正テ或ハ通常ノ動産物ニ關スル場合ヨリモ尚ホ一層嚴シキ法式ヲ行フヲ要セサルカト思ハシムルニ至ル也

第五十二條 ○右ノ差押ヲ行フ時ハ必ず左ノ諸件ヲ指示スルヲ要ス



第一、其船号、

第二、其所屬スル国名

第三、其船名ヲ簿冊ニ登録シタル港ノ名

第四、其押ヲ為ス時ニ其船ノ碇泊スル港

第五、其船ノ性質州前船ナルカ又ハ蒸汽船ナル

ル

第六、其用方(河船ナルカ又ハ海船ナルカ、旅人

ヲ載セシモノナルカ又ハ商品ヲ載セルモノ

ナルカ、遠用ニ航行スルモノナルカ又ハ

内国ニ限り航行スルモノナルカ)

第七、其船力即チ噸数

第八、其航行スルヲ得可キモノナルカ又ハ航

行スルヲ得可カラザルモノナルカ、

第九、所有者及ヒ船長ノ姓名、

又細具大砲其他航行中ニ必要ナル附属品食

物、衣服類、商品、其外金錢等モ亦必ス其大要ノ

模様ヲ調査ニ記列スルヲ要ス

且ツ此差押ヲ為スニハ右ノ外、勅産ノ差押ニ付

キ定メタル諸多ノ条件ヲ以下ノ箇条ニ記載ス

ル區別ニ從ヒ同シク適施ス可シ

差押ヲ行フニ付キ指示ス可キ九個ノ事柄ニ

関シテハ別段長キ説明ヲ下スニ及ハサルナ

リ

第一、船艦等ニハ皆テ各々特別ノ番号ヲ附ス

ルヲ常トス又又之ヲ附セサル可カラス○

船号ヲ附スルノ習慣ハ各國皆テ之アリ日本



ニ於テモ尚キ然リ漸次此習慣ヲ擴張シテ此  
細ノ舟艘ニ至ル迄成ル可ク各号ヲ附スルヲ  
可トス

船類ハ元來同一ノ場所ニ置ク可キモノニ非  
サルカ故ニ必ス其何レノ船ナルヲ確認ス  
ルニ要用ナル方法ナカラサル可カラズ然ラ  
サレハ其船ヲ指揮スル者ノ為ニタル犯罪又  
ハ其者ノ擔當ス可キ責任等ヲ証明スルヲ要  
スル場合ニ於テ大ニ不都合ナル可ク又諸船  
其他船ノ行衛ヲ失シタル場合ニ於テモ亦大  
ニ善支一アル可キ

ハ概シテ之ヲ攝造シタル所ニ屬スルモノト  
ス○外國ニ於テ攝造シタル船号ヲ以テ他  
國ノ者ニ屬セシメ以テ其所屬スル國ヲ更ハ  
シメントスル時ハ必ス次ノ項ニ定メタル規  
則ニ循ヒ其國ノ港ニ到着セシメ豫テ設ケル  
ル簿冊ニ船号ヲ登録シ以テ之ヲ切化セシム  
ルノ方法ヲ施サ、ル可カラズ

第三、國內ニ在ル諸港ノ中一ヲ選テ船ノ切着  
スル所ヲ定メ置クハ恰モ其船ノ住所ヲ定ム  
ルト云フニ等シキ有様ナリ

各地方ノ官廳ニテハ番号ノ順序ニ從テ諸船  
類ヲ記入ス可キ特別ノ簿冊ヲ設ケ置ク可シ  
併南西ニ於テハ此簿冊ニ記入スルヲ好シ



テ「インマトリキユラシヨント云フ而モ其  
簿冊ヲ各々テ「マトリキユル」ト称ス  
第四、諸船類ハ皆人類ニ等シク彼所ニ移リ此  
所ニ轉ヒテ始終其存ル所ヲ一ニセサルモノ  
ナルカ故ニ長押ヲ行フ場合ニ當リテ或ハ其  
所屬スル港内ニ碇泊セサルトモ「ラ」ニ是レ  
其長押ノ碇層ニハ碇ノ碇泊セシ港谷ヲ附記  
ス可シト云一ル法則アル所以ナリ  
第五、船ノ運轉スル方法ノ相異ナルニ因リ必  
ズ其構造上ニ大ナル關係ヲ生シ且ツ其價額  
ノ上ニ付テモ亦大ナル影響ヲ及スナリ故ニ  
其運轉ノ方法ヲ指示スル時ハ自ラ其船ノ性  
質ヲ知ルニ充分ナル可シ

若シ其風帆船ナル時ハ其揚ノ數ヲ指示ス可  
ク又蒸氣船ナル時ハ輪機船ナルカ若クハ煤  
機船ナルト并ニ其機械ノ力度ヲ記載ス可シ  
第六、總テ船類ハ各々其用方ヲ同フスルモノ  
ニ非ス河船アリ海船アリ又人ヲ登載スル為  
メニ用テルモノアリ物子ヲ運送スル為メニ  
用テルモノアリ又遠航ニ使用スルモノアリ  
内河ニ在ル諸港間ノ航行ニ限ルモノアリ  
第七、船力トハ即チ其積力ナリ之ヲ量ルニ二  
個ノ方法アリ或ハ其船ニ登載シ得可キ重量  
ヲ以テシ或ハ之ニ登載シ得可キ積量ヲ以テ  
ス一ヲ噸數ニ從テ算スルト云ヒ他ノ一ヲ量  
數ニ從テ算スルト云フ又或ハ碇水ノ尺量ヲ



以之ヲ量ルヲ得可シ

第八、航行スルヲ得可キ船ナルハ又ハ航行スルヲ得可カラサル船ナルハ一ヲ相居ニ附記スルヲ要ス蓋シ其航行ニ得可キモノト得可カラサルモノトニ従テ大ニ船ノ價額ニ影響ヲ及ホス可キカ故アリ

第九、所有者ノ名前ヲ指示スルヲ要スルハ蓋シ其所有者ハ自ら差押ヲ受クル義務者ナルカ故ナリ又其船長ノ姓名ハ其何レノ船ナルトヲ知ラシムルヲ要スルハ参考トナル可シ

本条ノ終末ニ記載セシ二項ノ法則ニ付テハ別段説明ヲ下スニ及ハス

第五十三條、五噸以上ノ船ナル時ハ其船ノ碇泊セシ土地ノ管轄内ニ在ル民事裁判所ニ於テ裁判補官一名ノ面前ニテ其賣拂ヲ行フ可シ此裁判補官ハ自ら其難賣ヲ監視シ以テ局記立金ノ上ニテ買受ノ定ヨリタルトヲ言渡ス可シ

噸數ノ稍々多キ船(五噸以上)ハ民事裁判所ニ於テ之カ賣拂ヲ為ス其他ノ船類ハ皆其地方ノ治安裁判所ニテ之ヲ賣拂フモノトス(第五十九條)

第五十四條、同上ノ場合ニ於テ船ノ所有者カ日本国内ニ在ル時ハ之ニ其差押ノ報知ヲ為シタル日ヨリ一ヶ月間ヲ経タル後ニ非カシハ其賣拂ヲ行フ可カラス又右ノ所有者カ外国ニ滞留スル時ハ其船長ニ差押ノ報知ヲ為シタル日



ヨリ一ヶ月日間ヲ経タル後ニ非カシハ右ノ賣掛  
ヲ行フ可カラス

一旦差押ヲ行フタル時ヨリ余リ速カニ賣掛

ヲ為スハ知分ノ當ヲ得タルモノニ非カシナ

リ故ニ法律ハ殊更ニ注意ヲ為シテ前条ニ定

メタル場合即チ五噸以上ノ舩ヲ賣掛フ場合

ニ於テハ必ス一ヶ月間ノ猶豫ヲラシメテ年

ニ於テ其他ノ場合ニ於テハ通常ノ期限即チ八

日間ノ猶豫ヲ以テ充分ナル可シ

第三十五條ノ賣掛ハ豫メ八日間ツ、ヲ為シ、  
三四：左ノ場所ニ揭示ヲ為シテ之ヲ公示ス可  
シ

第一、民事裁判所ノ門前  
第二、郡役所止役所  
第三、商人集會場

第四、所有者又ハ舩長ノ住所  
第五、舩ノ碇泊スル港内ニ在ル揭示場

右ノ外其賣掛ノ事ヲ擔任スル裁判官ヨリ指示

スル新聞紙上ニ右同様ノ時間ヲ隔テ、三度ニ

之ヲ廣告ス可シ

揭示及ビ廣告ニハ必ス右ノ裁判官ヨリ任シタ

ル鑑定人ノ評定シタル代價ヲ記載スルヲ要ス

本章ニ規定セル法式ハ前章ニ記載セル法式

ニ同シク其主意ハ成ル可ク多クノ買主ヲ集  
ムルノ目的ニ出ツルナリ  
茲ニハ別段重キ之ヲ明言セスト至氏亦条



ノ法則ハ持ニ五噸以上ノ船ノミニ関スルモ  
ノト解ヌ可キナリ○五噸以下ノ船ニ関スル  
法則ハ後チ第五十九条ニ之ヲ記載セリ  
第五十六条○若シ其船カ既ニ借入質権ノ抵当  
ト为サレタルモノナル時ハ其差押ノ事其賣場  
ノ为メニ定マリタル時日ノ事及ヒ賣拂ヲ行フ  
場所ノ事等ハ所有者ニ之ヲ報知スルト同時ニ  
其借入質ノ権利者ニモ亦之ヲ報知スルヲ要ス  
質ト借入質トノ間ニ大ナル差異アルハ皆ナ  
人ノ知ル所ナリ質ノ抵当タル物件ハ總テ其  
権利者ニ引渡シテ占有ヲ为サシムルト是レ  
之ニ反シテ借入質ハ唯其物件ヲ以テ負債ノ  
抵当ニ定メ置クノミニ止マリ餘テ權利者ヲ

シテ之カ占有ヲ为サシムルニ非ヌ  
日本ニ於テハ未メ嘗テ船類ヲ以テ借入質ノ  
抵当ト为スノ法則ヲラサルナリ唯之ヲ以テ  
質ノ抵当ト为スヲ先許セルノミ去シトモ  
日本ニ於テモ既ニ佛蘭西及ヒ其他ノ諸國ニ  
行ハレルカ如ク遠方ヲス船類ヲ以テ借入質  
ノ抵当ト为スヲ明許スルナラニ果シラ之  
ヲ許スニ至ラハ義務者ヲシテ引續テ其抵当  
ニ供シクル船ノ使用ヲ为サシムルニ便ナリ  
○本章ノ法則ハ後日其期ニ至リテ制定ス可  
キ新ノ物上ニ関スル抵当ノ为メニ豫テ定メ  
置クモノナリ  
他又々質ト借入質トヲ相區別ス可キ一ノ旨



異アリ此蓋異ハ前段ニ示シタル蓋異ニ因テ  
生スル効果トモ云フ可キモノ十ラニ總テ質  
ノ抵当トシテ引渡シタル物件ハ必ス其質ノ  
権ヲ有スル権利者ニ非カレハ之カ蓋抑ヲ行  
フヲ能ハス他ノ権利者ハ次シラ之ヲ蓋抑フ  
ルヲ得ス質ノ権ヲ有スル権利者ハ所謂ル  
保<sup>〇</sup>有<sup>〇</sup>ノ權ナルモノヲ有スルカ故ニ自ラ充分  
ノ朱済ヲ受ケルニ至ル迄ハ已シニ其物件ヲ  
貯一置ク<sup>〇</sup>ヲ得可シ<sup>〇</sup>在レハ若シ他ノ權利  
者カ質ノ抵当タル物件ハ其擔保スル所ノ債  
主權ノ高ヲ超過スル價值アリト信スルニ於  
テハ必ス自ラ其質ニ関スル負債ノ高ヲ悉ク  
朱済シ以テ其質ノ權アル<sup>〇</sup>ヲ止メシメサル

可カラス  
之ニ及シラ骨入質ノ抵当アル場合ニ於テハ  
如何ナル權利者ト雖モ皆其財産ノ賣拂ヲ要  
ムル<sup>〇</sup>ヲ得可シ但シ其骨入質ノ權アル權利  
者ノ有スル先取りノ特權ハ必ス之ヲ遵守セ  
サル可カラス  
本章ノ主眼トスル所ハ唯蓋抑ノ率并ニ賣拂  
ノ時日ヲ其骨入質ノ權利者ニ報知ス可シト  
云フニ過キサルナリ  
第五十七條〇若シ賣拂ヲ行フ前他人其服ヲ已  
レニ取戻カンカ<sup>〇</sup>為メニ故障ノ申立ヲ為ス時ハ  
亦<sup>〇</sup>利官其裁判所ニ要求ヲ為スタメニ之ニ猶豫  
ノ期限ヲ許ル<sup>〇</sup>ス可ク且ツ其裁判書渡ヲ為スニ



至ル迄右ノ責押ヲ停止ス可シ

若シ其期限内ニ右ノ要求ヲ為サハル時ハ故障ノ申立アルニ拘ハラズ其責押ヲ行フ可シ但シ右ノ取戻ヲ為ス者其責押ノ代金ニ付キ故障ノ申立人ト為サシ共ニ之ニ失スルハ格別ナリト入

若シ自ラ真ノ所有者ナリト申立ル他人アリテ其責押ヲ止メシメントスル時ハ或ハ其義務者ト互ニ通謀シテ之ヲ為スニ至リシヲラント云フノ恐レアリ是レ法律上急遽吟味ヲ以テ其他人ノ申立ニ付キ裁判ヲ下ス可シト云ハル規則アル所以ナリ  
第五十八条ノ責押人ニ代金ヲ渡スニ付キ雜費ヲ為シタルヨリ三日内ニ他ノ故障ヲ申立ル者アル時ハ必ズ其申立ヲ先許ス可シ但シ右三日ノ期限ヲ経過シタル後ニ至レハ責押人ト受益ニ已レヲ知ラシメタル故障申立人ト間其代金ヲ分配ス可シ

右ノ外他ニ故障ノ申立アリト至テ敢テ其責押ヲ為スニ善支ハトナラス  
此故障申立ハ唯雜費ニ因リ得タル代金ノ配當ニ加ハルナリ得可キ權利ヲ授ケルノミニ過キサルナリ

第五十九条ノ五噸又ハ其以下ノ船舶水車、浴船及ヒ其他水上ニ在リテ動力可キ揚造物等ニ関スル場合ニ於テハ必ズ其責押ノ報知ヲ為シタ

同法省



ル日ヨリ八日間ヲ経ソル後其賣場ヲ行フ可也  
右ノ賣場ハ治安裁判官ノ面前ニテ且ツ其指定  
スル場所ニ於テ登記立金ノ上之ヲ行フ可也  
此賣場ヲ行フ日ヨリサナクトモ三日以前ニ其  
賣場ヲ為ス可キ場所、郡役所、区役所及ヒ所有者  
ノ門前ニ其揭示ヲ為ス可也  
法律ハ亦年ニ移リテ五噸若クハ五噸以下ノ  
船ニ関スル規則ヲ設ケリ  
賣場ヲ行フタル時ヨリ賣場ヲ為ス時ニ至ル  
迄ハ八日間ノ猶豫アルヲ以テ足レリトセリ  
故ニ其公手ヲ為スノ時間太ク短少ナリ○且  
ツ其賣場ハ治安裁判所ニ於テ登記立金ノ上  
之ヲ行フモノトス

先ツ一般ノ場合ニテハ治安裁判所内ニ於  
テ右ノ賣場ヲ行フテ實際最モ多カル可也去  
シトモ治安裁判官賣場ノ都合ニ因リ他ノ場  
所ヲ指示シテ自ラ出張ヲ為スモ散ラ善支一  
アラサルナリ此ノ如キ場合ニ於テハ專ラ公  
ケノ場所又ハ市場ノ如キ場所ヲ選テ指示ス  
ルナランノ例ハ其賣場ニ出ス可キモノ加  
減船ナル時ハ治安裁判官ハ專ラ此類ノ諸船  
ハ出入ノ為メ且ツ其種類ヲ賣捌リ為メニ常  
ニ編纂スル場所ヲ指示スルナリ得可キナリ  
第六十條ノ船舶ノ差押ヲ為シタル上ニテ其難  
賣ヲ行フ時ハ当然其船長船長ノ契約ヲ解止シ  
且ツ水夫等ノ賃料ヲ拂フナリ止ムル者トス但



右等ノ者其代金ニ付テ相当ノ賠償ヲ要スル  
ハ格別ナリトス

船ノ旧所有者カ定メタル契約ヲ罷責ノ消  
タル後ニ至ル迄尙ホ其債ニテ維持セントス  
ルハ素ヨリ難シ去レトモ船長并ニ水夫等ハ  
敢テ其契約ノ解除アリタルカ为メニ自ラ損  
害ヲ蒙ル可キ理アリタル故ニ法律ハ  
此等ノ者ニ許ルニ相当ノ賠償ヲ要スルノ  
權ヲ以テセリ○右等ノ者カ其債額ヲ要スル  
ニハ必ス其押人并ニ其他ノ権利者等ト共ニ  
之ヲ为サハル可カラヌ

若シ民法ノ通則(未定)ニ循ヒ右船長及ニ其他  
水夫等ハ一ノ特權ヲ有スルトスルモ其特權  
ノ区域ハ必ス受取ル可キ期限ノ経過シタ  
リ  
賃料ノ止マレ可ク敢テ其賠償ニハ之ヲ  
及エヌ可カラサルナリ



第四章 収納ヲ為ス以前ニ行フ菓實ノ差

押(セビールランド) 佛訴法第六百二十六条  
乃至第六百三十五条

未ダ収納ヲ為サ、ル以前ノ菓實ハ其差押ヲ  
為ス時ニハ尚ホ不動産ナリト虽モ此差押ハ  
等レク動産ノ差押ト之ヲ看做サ、ル可カラ  
ズ如何トナレハ仮令之カ差押ヲ為スト虽  
モ後々其菓實ヲ土地ヨリ取離ス時ニ至ラサ  
レバ到底充分ノ効果ヲ生シ能ハカル可キカ  
故ナリ

佛蘭西ニ於テハ今尚ホ旧慣ヲ存シテ此差押  
ヲ称シテセビールランドト云(グラント)  
トハ藁ト云フ義ナリ)蓋シ一旦差押ヲ行フタ  
ル後其地面内ニ少シク高カ目ニ藁把ヲ積之



置キ以テ其収納物ノ最早ヤ他ニ処分ス可キ  
トシニ非サルヲ示スノ慣習ニ因リテ傳來  
セシ熟語ナリ

第六十一条○未タ土地ニ附着スル築定ハ其種  
類并ニ地方ノ模様ニ因リ通常成熟ノ期ヨリ以  
前少クトモ六週間以内ニ至ラサレバ之ヲ差  
押フ可カラズ又之ヲ賣拂フ可カラズ  
差押ヲ為ス時ハ必ス豫メ執行力ヲ有スル証書  
ニ基キテ為シタル要項ノ旨ヲ差出ス可シ

法律ハ殊更ニ本条ノ規則ヲ設ケテ収獲ヲ為  
ス可キ季ニ先ケテ年リ速クニ築定ヲ差押フ  
為スヲ許ルヤスト定メタリ蓋シ若シ之ヲ  
禁スルノ規則ヲラサレニ就テハ必ス總テノ

關係人ヲシテ共ニ其損害ヲ蒙ラシムルニ至  
ル可キカ故ナリ義務者ハ自ニ望ム所最  
早ヤ其耕作ニ意ヲ注カサルニ至ル可ク果シ  
テ然ラシニハ必ス又他ニ番人ヲ選ク之ヲ擔  
任セシメサル可カラズ他ノ番人ヲシテ之ヲ  
擔當セシムルニ於テハ其入費ノ高モ亦必ス  
少許ナラサル可シ

第六十二条○若シ其築定カ差押ヲ受ケタル者  
ノ食料ニ充ツ可キモノナルカ又ハ日用品ナル  
時ハ其者及ヒ其者ト同居スル家族ノ一ヶ月間  
ニ用フルニ必要ナル部分ヲ取テ置ク可シ

本条ノ法則ハ全ク人情ニ基キテ起リタルモノニシテ既ニ  
第十四条第八号ニモ同様ノ規則ヲ示ス



第六十三條〇若し耕作人其葉実ヲ差押ヘラレ  
タル土地ヲ耕耘スル為メニ牛馬ヲ使用スル時  
ハ其款類ノ中一疋又ハ一頭ノ為メニ収獲ヲ為  
ス時ニ至ル迄ノ時間中ニ用フル飼料ヲ残シ置  
ク可シ

本年ノ目的トスル所ハ収獲ヲ為ス時ニ至ル  
迄ノ時間中引続テ耕作ヲ為ラシメテ一トテ四  
ルヲ在リ〇昏記ハ差押ヲ受ケタル者及ヒ差  
押人立金ノ上ニテ其為メニ要スル款類ノ負  
致ヲ許ス可シ

第六十四條〇又次年ニ蒔キ付ケル為メニ充ツ  
可キ種子ノ高ヲ残シ置ク可シ但シ其耕作人ハ  
其收納ヲ為ス後、至リ直ニ終ハル可キ土地ノ

賃借人ナル時ハ此限ニ在ラス

本条ノ法則モ亦将来ノ収獲物ノ利益ヲ計ラ  
シカ为メニ定メラレタルモノナリ但シ是レ  
ハ其耕作人カ次ノ年ニ至ル迄引続テ其耕耘  
ヲ為ス場合ニ限ルナリ

第六十五條〇右二箇條ニ定メアル規則ハ土地  
ノ耕作人所有者又ハ賃借人ニ付テ行フ諸多ノ  
動産物ノ差押ニモ亦等シク之ヲ適施ス可シ

本条ノ規則ハ耕作人ノ有スル動産物ヲ差押ヘ  
ル時ニ適施ス可キモノナリ〇若シ既に収納  
シ且ツ既に取集メタル葉実ノ差押ヲ為ス時  
ハ翌年ノ為メニ相当ノ種子ヲ残シ置ク可ク  
又若シ總テ款類ヲ差押フルニ及ハサル時



(總テノ歎類ヲ差押ヘル時ハ必ス其耕作ヲ為スニ差支アリ)ハ其耕作ノ為メニ要用ナル歎類ノ飼料ヲ残シ置ク可シ

第六拾六条〇差押ヘタル収納物ノ首守又ハ監視ハ田野者守役又ハ其他田野警察ヲ擔任スル吏員ニ之ヲ任ス可シ若シ右等ノ吏員ニ差支ハアル時ハ最近ニ在ル耕作人ノ中一人ニ之ヲ任ス可シ

夫々収獲セザル菓實ヲ首守スルニハ必ス種ノ実驗アル者ニ非ケレハ能ハズ本条ニ指示スル者ハ皆ナ其任ニ適當ス

法律ハ別段茲ニ第三十條ニ記載アル通常ノ条件ヲ要スル旨ヲ明言セズ去レトス此等ノ

条件ハ無論之ヲ守ラサル可カラズ

第六拾七条〇賣拂ハ其菓實ノ成熟スル期ニ成ル可物接近シタル時分ニ至リ之ヲ行フ可シ右ノ賣拂ハ其差押ヘタル収納物ノ中重立タルモノ、存在スル邑ノ重立タル場所ニ於テ之ヲ行フ可シ但シ其差押ヘタル収納物カ諸多ノ邑内ニ在ル時ト虽モ亦右同様ナリトス成ル可ク同市ノ日ヲ選テ右ノ賣拂ヲ行フ可シ本条ノ規則ヲ以テ賣拂ノ場所及ヒ其時季ヲ定メタルハ全ク關係人ノ為ニ成ル可ク多ク利益ヲ得セシメント計ラシムルノ意ニ出テタルナリ

第六十八条〇指示ハ賣拂ヲ行フ場所郡役所区



役所ノ門前及ヒ差押ヲ受ケタル者ノ門前ニハ  
以前ニ之ヲ為ス可シ指示ニハ左ノ諸件ヲ記  
載ス可シ即チ賣拂ヲ行フ日差押ヲ受ケタル者  
ノ姓名差押人ノ姓名葉実ノ種類其葉実ノ在ル  
土地ノ廣狹

第六十九條○收納物ノ入費ハ總テ糶賣ノ買受  
人ニ之ヲ擔當ス可シ

賣拂ヲ為ス前ニ葉実ヲ收納スルコトヲ要スル時  
ハ正當ニ差押ヲ受ケタル者ニ其旨ヲ告知シ  
ル後其旨ノ面前ニテ其差圖ヲ受ケテ右ノ收納  
ヲ為ス可ク且ツ之ヲ殺怠ニ入レ置ク可シ

第七十條○動産物ノ差押ニ関スル一般ノ規則  
ハ未タ収細セサル葉実ノ差押ニモ亦之ヲ通施  
ス可シ

此等三個ノ法條ニ付テハ別段説明ヲ下スニ

及ハス

但シ實際ニ於テハ收納ニ関スル入費ノ為メ  
ニ其糶賣ニ因リ得タル代金ノ高ク多少減少  
スルニ至ルコトヲ是レ少シク注意ス可クモ  
ノナリ



第五章

制止差押即之故障房押ノ事

五十四條以下ノ事

本章ニ規定スル差押ニハ執行ノ性質アリト

云ハシヨリ寧ク保存ノ性質アリト云フ可キ

ナリ故ニ前段ニ記載セル諸多ノ差押トハ多

少相異ナル所アリ去リテカヲ畢竟其執行ヲ

為ス可キ結果ニ至ルカ故ニ敢テ保存差押ノ

部類中ニハ之ヲ記列セタルナリ

第七十一条ノ命令執行力ヲ有スル証書アラズ

トモ一ノ証書ニ因リ確定証明ナルモノニシ

テ且ツ要求スルヲ得可キ金額又ハ其他有價物

ノ権利者ハ總テ其義務者ノ手ニ他人ヨリ義務

ヲ免カレ、為メニ金額其他ノ有價物等ヲ渡ス

トシ付テ豫メ要決書ヲ差出スル無リシテ制止

トス

同  
第  
百  
一  
十  
一  
條



差押即干故障ノ申立ヲ為スルヲ得可  
債主権ハ確定セシモノナルモ未タ詳明ナラカ  
ルモノナル時ハ其差押ヲ行フ権利者後ニ至リ  
相對ノ上更ニ議定セシムルヲ貯存ニ置キタル上  
ニテ後リニ自ラ其評價ヲ為ス可シ  
制止差押ノ事ニ付テハ民法草案ニ於テ緊要  
ナル諸多ノ法則ヲ記定セリ(其何事)  
制止差押ニ非サル他ノ差押ハ其義務者本人  
ニ對シテ常ニ之ヲ行フモノナリト雖モ之ニ  
及シテ制止差押ハ一人他人即チ差押ヲ受ケ  
タル者ノ義務者ニ對シテ之ヲ行フモノナリ  
但シ差押ヲ受ケタル者モ亦自ラ其手續ニ連  
着スルカ故ニ其定之ニ對シテ常ニ其制止差

押ノ手續ヲ行フモノナリト云フモ敢テ失言  
ニ非サル可シ如何トナレハ其手續ノ極ナル  
所以畢竟其差押ヲ受ケタル者ノ有スル債主  
権ヲ以テ更メテ其差押人ニ附与スルノ結果  
ニ至ル可キカ故ナリ○本案ノ規則ニハ充分  
ニ此効果ノ事ヲ明示スルナリ  
法律ハ強ク差押人ノ証券カ執行力ヲ有スル  
モノナルトテ必要トセサルナリ唯其証券ヲ  
ルヲ以テ是レリトス且ツ若シ其証券アリテ  
ル時ハ裁判官ノ命令存ヲ以テ之ニ代ヘ用フ  
ルヲ得可シ  
右ノ外法律ハ更ニ差押人ニ付テ三個ノ条件  
ヲ規定セリ即チ其債主権ノ確定セルモノナ



ルコト証明ナルモノナリト及ヒ要求スルヲ得  
可キモノナリトヲ要スルト云フ是ナリト蓋  
シ此等ノ条件ハ皆通常ノ動産物差押ニ付テ  
必要ナルモノナリ

且ツ本条ノ場合ニ於テハ仮リノ評價ヲ以テ  
証明ナルトヲ要スルト云ハル条件ニ代ヘテ  
ハルコトヲ得可レ但シ是レハ執行力ヲ有スル  
証骨ニ關セシル場合ニ於テハ決シテアル可  
ラナル事ナリ如何トナレハ其負債ハ必ス裁  
判官渡層ニ因リ若クハ公正ノ証骨ニ因リテ  
常ニ確然ト証明ナラシム可キカ故ナリ  
則チ差押ノ目的トナル所ニ付テ之ヲ觀ル時  
ハ全ク動産物ノ差押ニ屬ス可キモノナリト

故ニ法条ニハ朋カニ其差押ヲ受ケタル他人  
ノ擔當スル價額ヲ必ス動産タル可キコトヲ要  
スル旨ヲ記載セリト佛蘭西法律ハ當テ其区  
別ヲ明定セサルカ故ニ或ハ不動産ニ付テモ  
亦等シク制止差押ヲ為スコトヲ得可シトスル  
モ敢テ無理ノ論ニハ非サル可レ但シ實際ニ  
於テ果シテ此論ノ如ク制止差押ヲ以テ等シ  
ク不動産ニ及ボスニハ必ス其場合ヲ限ラヤ  
ル可カラズ語ヲ更ヘテ之ヲ云ヘバ其他人ノ  
擔當スル負債ノ目的トスル所ガ敢テ確定シ  
タル一ノ不動産(確定物)ニ在ルニ非ズシテ唯  
其地面ノ高ヲ以テ指示シタル不動産ニ在ル  
場合ノニニ限リテ此規則ヲ適施ス可キナリ



若シ然ラサル場合ニ於テハ其所有權ハ既ニ  
約束ニ因リテ移轉ス可キ力故ニ即チ不動産  
差押ノ場合ニ陥ルナリ

此法律草按ニ於テハ不動産ニ関スル權利ハ  
皆不動産差押トシテ執行差押ノ目的トナル  
トヲ得ルノミナリト決定セリ。蓋シ不動産  
差押ノ為メニ最モ細密ノ規則ヲ設ケ且ツ公  
式ヲ履行ス可キ旨ヲ定メアルハ敢テ其差押  
ヲ受ケタル者ノ權利ニハ対人権即チ債主権  
ニ對スル物上ノ性質アル力ヲ非ズ全ク  
不動産ノ總テ其義務者ノ家産中ニ於テ至極  
重要ナルモノナルガ為メナリ果シ然ラバ  
其不動産が既ニ義務者ニ屬セル場合ト唯義務

務者が他人ヨリ受取ル不動産アル場合トニ  
於テ其重要ノ点ニ付キ必シモ相異ナル可キ  
理アラサルナリ

第七十二条ノ權利者證唇ヲ有セザル時ハ其義  
務者ノ住居スル土地ニ在ル裁判所ノ所長カ又  
ハ其他人ノ住居スル土地ニ在ル裁判所ノ所長  
ニ請フテ此法官ヨリ假リニ定ムル金高又ハ價  
額ノ高ニ至ル迄制止差押ヲ為カン<sub>ト</sub>ヲ要ムル  
トヲ得可シ  
其  
右裁判所所長高許可ヲ与フルトヲ拒ミタル時ハ  
權利者其權利ノ基本ニ付キ主タル訴訟ヲ為ス  
ニ非カレバ控訴スルトヲ得ス  
若シ權利者カ証唇ヲ所持セサル時ハ必ズ裁



判所ノ所長若シハ之ニ代<sup>ニ</sup>成<sup>ハ</sup>ル裁判官豫<sup>メ</sup>其  
申立ヲ取調ヘタル後明カニ之ヲ允許シタル  
以上ニ非サレバ敢テ其制止差押ヲ行フコトヲ  
得ズ裁判官其申立ヲ以テ充分ノ理カリト考  
フル時ハ必ス其差押ヲ行フコトヲ允許スルナ  
ラン且ツ其差押ヲ行フ可キ金高ヲ假リニ定  
ムルナラン之ニ反シテ若シ其不当ノ申立ナ  
リト考アル時ハ断然其差押ノ許可ヲ与フル  
コトヲ拒ムナル可シ

差押ノ許可ヲ得カル場合ニ於テハ權利者ハ  
尚ホ已レノ權利ヲ証明スルヲ爲メニ通常ノ方  
法ニ因リテ其許認ヲ爲スコトヲ得可シ  
但シ許可ヲ得タル場合ト之ヲ得サル場合ト

ニ拘ハテズ右裁判所長ノ決定ハ敢テ其權利  
ノ基本ニ付テ少シモ影響ヲ及ホス可キモノ  
ニ非ス

第七十三条ノ制止差押ハ他人ノ拂フ可キ總テ  
ノ金高又ハ價額ニ付テ之ヲ爲スコトヲ得可シ但  
シ其金高萬ハ未ダ詳明ナラズモラ且ツ要求ス  
可キ期限ニ至ラサルモノト雖モ亦右同様ナリ  
トス

差押ヲ受ケタル者ニ渡ス可キ養料食料及ヒ其  
他法律ニ因リ差押ヲ可カラズト規定セラレタ  
ル物品等ハ悉ク右ノ例外ナリトス  
法律ハ差押人ニ拂フ可キ金高若クハ價額ハ  
必ス説明ニシテ且ツ要求スルコトヲ得可キモノ



ニ限ルヲ要シタルモ差押ヲ受ケタル他人ノ負債ニ付テハ敢テ此等ノ条件ヲ要スル者ヲ記載セサルナリ蓋シ此場合ニ於テハ唯其他人力差押ヲ受ケタル事務者ノ手ニ直ニ辨済ヲ為サ、ル様ノ方法ヲ施スニ過キサルカ故ナリ但シ果シテ右等ノ價額ヲ以テ差押入ニ渡ス可キ場合ニ至ラバ必ス其説明ニシテ且ツ期限ノ經過シタルモノナリトヲ要セサル可カラズ

差押ノ權ニ関スル普通ノ制限ハ皆本条ノ場合ニモ亦必ス之ヲ邊施ス可シ

第七千四條ノ制止差押ノ調査ニハ第七條ニ定ナル如ク其證書及ビ其證書ニ記スル至要ノ

事柄ヲ記載スルヲ要ス但シ若シ其證書ノアヲサハル時ハ裁判官ノ与ヘタル許可ノ事ヲ附記ス可シ

且ツ差押ノ證書ニハ第十條ノ規則ニ循ヒ選定シタル住所モ亦共ニ之ヲ記載スヘシ

本条ニ定メアル法則ハ載テ制止差押ノニニ特別ナルモノニハ非スト虽モ法律力殊更ニ茲ニ之ヲ記載シタル所以ハ蓋シ此制止差押ニハ常ニ混同ノ性質アルカ故ナリ

第七千五條ノ差押ヲ受ケタル者ニ官金支配役ヨリ渡ス可キ金額ニ付キ制止差押ヲ行フ時ト虽モ等モリ本章ノ規則ニ循フ可シ但シ行政法ニ因リ別段ニ規定アル場合ハ此限ニ在ラズ

司  
法  
官



若シ差押ヲ受ケタル者ガ政府又ハ官廳ニ對  
スル權利者ナル時ハ必ズ其辨濟方ヲ擔當セ  
ル官金ノ支配役ニ付テ其制止差押ヲ行ハ  
ル可カラズ

去レトモ此場合ニ於テハ國庫ノ算計ニ關ス  
ル法則及ヒ其他特別ノ法式ニ循ハサルヲ得  
ズ○法律ハ既ニ定メアル此等ノ規則ニ意ヲ  
寓シテ本条ノ法則ヲ記載セリ但シ右等ノ規  
則ニハ早晚経験ヲ經タル後尚ホ多少ノ改正  
ヲ加フルヲモプラン

若シ國庫ノ算計ニ關スル法律中ニ特別ノ規  
則アラサル時ハ本条ニ定メアル普通ノ法則  
ヲ適施シテ可ナリ

第七十六条ノ制止差押ハ其差押人ノ要求ニ因  
リ八日以内ニ差押ヲ受ケタル事務者ニ之ヲ告知  
ス可シ且ツ差押ノ當否ヲ裁判セシムル為メニ  
其事務者ノ住居スル土地ノ裁判所ニ之ヲ呼出  
ス可キ旨ヲ記シタル召喚狀ヲ右ノ告知ト同時  
ニ送達スルヲ要ス

右ノ告知ハ其差押ヲ受ケタル他人ニモ亦三日  
間ニ之ヲ送達ス可シ

第七十七条ノ里程ノ遠隔スルニ從ヒ増加ス可  
キ法定ノ期限内ニ右ノ告知及ヒ反告ヲ為シ、  
ル時ニ其差押ヲ受ケタル他人ヨリ差押ヲ受ケ  
タル事務者ニ為シタル弁済ハ總テ有効ナリ  
制止差押ハ常ニ其差押ヲ受ケタル者ノ事務



者ナル他人ニ対シテ直接ニ執行スルモノナ  
ルカ故ニ必又其差押ヲ受ケタル者ニ之ヲ知  
ラシメザル可カラズ故ニ之ニ一ノ告知ヲ為  
シテ其旨ヲ知ラシム所謂告知トモノハ  
即チ一ノ告知ニ外ナラズ然ルニ告知ト云ハ  
スシテ告知ト稱スルハ蓋シ慣習ノ然ラシム  
ル所ナリ

右ノ告知ヲ為スル同時ニ其差押ヲ受ケタル  
旨ヲ当人ノ住居スル土地ニ在ル裁判所ニ召  
喚シ以テ其差押ノ事ヲ認知セシメ且ツ其差  
押ノ効力如何ニ付テ申立ヲ為スニ便ナラ  
シム  
差押ヲ受ケタル他人ニモ亦必又其告知旨ヲ

送達スルヲ要スルナリ是レ其他人ヲシテ差  
押ノ無理ナラサルヲ知ラシムル為ソナリ  
此告知ヲ稱シテ及告知ト云フ

右三個ノ証旨(告知旨召喚旨及告知旨)ヲ法  
定ノ期限内ニ為サリシ場合ニ於テハ差押  
ヲ受ケタル他人ハ最早ヤ其差押ヲ止メタル  
モノトシテ自己ノ権利者ナル差押ヲ受ケタ  
ル義務者ニ討シテ正当ニ弁済ヲ為スルヲ得  
可キナリ

第七十八条○差押人ノ利益ノ為メニ前キニ記  
シタル公正証旨又ハ裁判言渡旨ノテラガル時  
ハ裁判所ハ其負債ノ成立ニ付キ決定ヲ為ス可  
シ而シテ其差押ニ関スル法律上ノ条件ヲ悉ク



完備スルニ於テハ其差押ノ有効ナル者ヲ言渡  
ス可ク之ニ及スル場合ニ於テハ差押ヲ受ケタ  
ル義務者ノ要メニ因リ其差押ヲ除去ス可キ旨  
ヲ命ス可シ

若シ差押人ノ其差押ヲ受ケタル義務者ニ対  
シテ有スル債主権ノ証拠トナル可キ公正ノ  
証人(裁判言渡者又ハ証人ノ記シタル証人)ア  
ルニ於テハ裁判所ニテハ唯其権利ヲ確認ス  
ルノミヲ以テ足レリトス若シ之ニ及シテ其  
公正証人ノアラサル時ハ差押人ハ必ス通常  
ノ証拠ヲ為ス方法ヲ以テ其権利ヲ証明セザ  
ル可カラヌ

右二例ノ場合ニ於テハ裁判所ハ其差押ノ効

力ニ付テハ裁判言渡ヲ為ス可シ但シ本条ニ  
モ明定セル如ク右ノ裁判ヲ言渡スニハ必ス  
其差押ニ関スル諸多ノ条件ヲ完備スル場合  
ニ限ルナリ

若シ又差押人ノ有スル債主権アラサルカ又  
ハ差押ノ正当ナラサル時ハ裁判所ハ其差押  
ヲ受ケタル義務者ノ要求ニ因リ其差押ヲ除  
去スル旨ヲ言渡ス可キナリ

第七十九条〇若シ差押ヲ以テ有効ナリト云渡  
シタル時ハ其差押ヲ受ケタル他人ヲシテ自己  
ノ擔当スル義務ノ成立其原由及ヒ其高ヲ申述  
セシムル為メニ其者ノ住居スル土地ニ在ル裁  
判所ニ之ヲ呼出ス可シ



差押ヲ受ケタル他人自ラ保有スル動産物ニ付  
キ差押ヲ行フタル時ハ右ノ他人ヨリ其模様  
及ヒ評價各ヲ差出ス可シ

差押ヲ以テ有効ノ者アリト云渡シタル時ハ  
必ス差押ヲ受ケタル他人ヲ裁判所ニ召喚シ  
以テ真ニ其差押ヲ受ケタル者ノ義務者ナル  
ヤ否ヤヲ申述セシム可ク且ツ其負債ノ高ハ  
幾許ナルカヲ申述セシム可シ

若シ又其動産物ニ関スル場合ニ於テハ其模  
様及ヒ評價ヲ記シタル一ノ表目ヲ差出ス可  
シ此表目ハ後々現物ノ全部ヲ返還セシムル  
時ニ至リテ要用ナリ

第八十条〇差押ヲ受ケタル他人自ラ其義務ヲ

擔當セシテ無シト述ヘスレテ唯其義務未必  
ノ条件ニ関スルモノナリト主張スルカ又ハ未  
タ要求ス可キ期限ニ至ラサルモノナリト主張  
スル時又ハ義務ノ相殺アリタルカ若クハ残金  
拂ナルカ又ハ其他自ラ擔當スル負債ノ全部或  
ハ一部ノ消滅スル原由アリト申立テタル時ハ必  
ス之ヲ詳細ニ記載ス可ク且ツ其証拠トナル可  
キ各書類之ニ合併シ置ク可シ  
且ツ若シ同一ノ金高又ハ價額ニ付キ既ニ行フ  
タル制<sup>上</sup>差押又ハ已レニ報知セラレタル債主  
権ノ讓渡アル時ハ右ノ外ニ其旨ヲ明陳スルヲ  
必要トス

差押ヲ受ケタル他人ノ申述ハ其者ノ利益ト



ナル可キ貯存ノ権アルニ因リ若クハ其者ノ  
利益トナル可キ申立ヲ為スニ因リ多少其模  
様ヲ異ニスルト有ル可シ法律ハ唯此等ノ諸  
件ヲ詳密ニ記載ス可キ旨ヲ命シ共セテ其申  
立ノ証拠ト为ル可キ昏類ヲ差出ス可キ旨ヲ  
命スルノミニ止マルナリ去ルトモ裁判所ニ  
於テハ未タ其申立ノ当否ニ付キ決定ヲ下ス  
可キ時ニ至ラサルナリ

法律ハ又差押ヲ受ケタル他人ヨリ他ノ制止  
差押アル旨或ハ已レニ報知セラレタル債主  
権ノ讓渡アル旨ヲ申述セレテ望メリ蓋シ  
既ニ別ニ行タル制止差押アルニ於テハ必ス  
新ニ行フタル制止差押ト共ニ之カ処分ヲ为

サ、ル可カラズ尤レハ最終ノ差押人ヲシテ  
其差押ヲ為ス者ハ已レ一人ノミニ非サル  
ヲ詳知セシムルト要ナリ○以前ニ行フタ  
ル債主権ノ讓渡アル時ハ其制止差押ヲシテ  
無効ナラシム差押人ヲシテ之ヲ知ラシムル  
ト尚ホ要用ナリトス蓋シ総テ無益ニ消費シ  
タル入費ハ悉ク差押人自ラ之ヲ擔当ス可キ  
カ故ナリ

第八十一条○右ノ申立ハ差押ヲ受ケタル他人  
又ハ其部理代人若クハ総理代人ヨリ十日ノ期  
限内ニ裁判所ノ登記局ニ之ヲ為ス可シ  
若シ其負債ガ治安裁判官ノ管轄ニ係ル可キモ  
ノナル時ハ治安裁判所ノ登記局ニ右ノ申立ヲ



為ス可ク得可シ

本条ノ規則ヲ以テ差押人ニ許ルシテ十日間ノ期限ヲ与ヘタル所以ハ全ク其差押人ヲシテ必要ナル調査ヲ為スニ付キ且ツ自ら登記局ニ出頭スルヲ能ハサルニ因リ名代人ヲ定ムル為メニ充分ノ猶豫ヲ得セシメンテ計リタルニ在リ

第八十二条〇差押ヲ受ケタル他人ノ請求ニ因リ右申述昏ノ写ハ其差押ヲ行フタル権利者ニ之ヲ送達ス可シ若シ其申立ヲ為サシムル為メニ右ノ他人ヲ呼出サシメタル権利者数人アル時ハ各権利者ニ其送達ヲ為ス可シ若シ又右ノ申立ヲ為シタル後更ニ新ノ差押又

ハ讓渡アル時ハ右同様ノ方法ニテ其送達ヲ為ス可シ但シ此場合ニ於テハ其差押ヲ受ケタル他人豫メ登記局ニ申述ヲ為ス可ク直ニ其送達ヲ為ス可シ

申述ヲ為レタルト共ニ其申述ノ如何ナル目的ナルトハ殊更ニ其差押人ヨリ登記局ニ就テ之ヲ要ムルニ及ハス必ス正當ノ法式ニ循テ記シタル送達昏ヲ以テ之ヲ其差押人ニ報スルヲ要スルナリ

或ル場合ニ於テハ其申述ヲ為レタル後ニ至リテ新ノ差押ヲ行フトモアラン然ル場合ニ於テハ其差押人ハ以前ノ差押アルトテ知ルニ付キ自ら利益アルニ等シク後々新ニ始マ



リタル差押アルヲ知ルニ付テモ亦等シク  
利益アル可シ故ニ新ニ始マリタル差押ハ直  
ニセニ報知ス可キ者トス但レ法律ハ預メ  
記局ニ其旨ヲ申述スルニ及ハストセリ是レ  
蓋シ其入費ヲ避ケンカ为メナリ

第八十三条○差押ヲ受ケタル他人前条ニ定メ  
アル期限内ニ申述ヲ为サズ其送達昏ヲ为サ  
ル時ハ差押人其差押ヲ受ケタル他人ノ住居ス  
ル土地ノ裁判所々長ニ請フテ相当ノ期限ヲ定  
メシムルヲ得可シ而シテ此期限ヲ経過シタ  
ル後ハ其差押ヲ受ケタル他人ニ對シテ單純ノ  
義務者ニ於ケルカ如ク欠席裁判ヲ为シ以テ其  
差押ノ原由ニ因テ拂フ可キ高ニ至ル迄其義務

ヲ尽スヘシト言渡サシムルヲ得可シ

右ノ如クニ定メタル期限ハ裁判官ノ命令ヲ其  
本人又ハ本人ノ住所ニ送達シタル日ヨリ之ヲ  
算計ス

法律ニ定メアル期限内ニ申述ヲ为サ、ル時  
ハ輕テ其制裁ヲ施サ、ル可カラズ○差押ヲ  
受ケタル他人ハ或ル定マリタル日ニ裁判所  
長ヨリノ呼出ヲ受ケ以テ其差押ヲ受ケタル  
者ノ單純ナル義務者トシテ裁判ヲ言渡サル  
、一有ル可シ

爰ニ注意スヘキモノ三ツアリ  
第一此呼出ハ敢テ通常ノ召喚期限ニ循テ之  
ヲ为スニ非ス○此呼出ノ期限ハ其裁判所長



ヨリ之ヲ定ムルモノトス裁判所長ハ常ニ其  
差押ヲ受ケタル他人ガ直ニ其要求ニ對シテ  
答辨ヲ為スニ付キ多少差支ハアルヤ否ヤノ  
模様ヲ測リテ右ノ期限ヲ定ムルナラン。且  
ツ裁判所長ハ其他人カ差押人ノ直接ナル義  
務者ニ非サルトニ懸慮シ共セテ其負債ノ或  
ハ未タ辨済期限ニ至ラサルモノニハ非サル  
カヲ視察ス可キナリ

第二、差押人ハ必ス其他人カ差押ヲ受ケタル  
者ニ對シテ擔當セル負債ニ付キ多少ノ証拠  
ヲ明示スルヲ要ス。勿論此証拠ハ其差押人  
カ自ラ直接ノ権利者タル場合ノ如クニハ判  
然セザルトモ有ル可シト虽氏少クトモ其裁

判所ヲシテ稍々信ヲ置カシムルニ足ル可キ  
モノタルヲ要スルナリ

第三、裁判ニテ云渡ス所ハ決シテ其差押人ニ  
辨償ス可キ金高ヲ超過スルトヲ得ス但シ其  
差出サレタル証各若クハ其他ノ証拠ニ因リ  
尚ホ之レヨリ多クノ高ナル負債タルトヲ知り得タル  
場合ト虽氏亦右同様ナリトス如何トナレハ差押人ハ  
後令ニ其負債ノ高ヲ超過スル裁判云渡ヲ得ル  
ト虽モ別段之カ为メニ自ラ特別ノ利益ヲ得  
可キノ理由アラサルカ故ナリ如何ナル場合  
ト虽モ凡ソ訴権ノ區域ハ其利益ノ限度ニ止  
マル可シト云フハ蓋シ一般ノ原則ナリ

第八十四条。差押ヲ受ケタル他人ガ確カニ其



義務アリト申述シタル時又ハ此他人が單純ナ  
ル義務者ノ如クニ裁判ヲ受ケタルカ若クハ其  
以下ノ金高ニ付キ裁判ヲ受ケタル時ハ其者ヨ  
リ拂フ可キ金高若クハ有價物ハ其差押人ニ附  
與ス可シ又若シ数多ノ差押アルカ或ハ故障ノ  
申立アル時ハ第八章ニ定メアル規則ニ循ヒ其  
金額ヲ配当ス可シ  
又右ノ他人義務者ナリト決定ヲ受ケタル動産  
物ノ高ニ付テモ亦右同様ナリトス此等ノ物品  
ハ悉ク通常ノ動産差押ニ付キ定メアル規則ニ  
循テ之ヲ賣拂フ可シ

差押ヲ受ケタル他人カ明確ニ其義務アル者  
ヲ申述シタル時又ハ其他人カ自ラ義務者タ  
ル旨ヲ裁判ニテ云渡サレタル時ハ其金高又  
ハ其價額ノ配当ヲ為サ、ル可カラズ○後段  
最終ノ章ニ於テ此事ヲ記載ス此末章ハ即チ  
總テノ差押ニ関スル最終ノ処分方ヲ規定ス  
ルモノナリ

本条ノ文面ヨリ之ヲ觀ル時ハ法律ハ唯其義  
務アル旨ヲ申述シタル場合ノ外特ニ前段ニ  
記定シタル欠席裁判ヲ為シタル場合ノミヲ  
示シタルニ過キサルカ如クニ思ハレトモ第  
八十条ニ記載アル諸多ノ場合ニ於テ差押ヲ  
受ケタル他人ト其義務者若クハ差押人トノ  
間ニ付テ云渡アル可キ出席裁判ニモ亦必ス  
本条ノ規則ヲ適施ス可シト云フハ敢テ疑フ



容ル可キトニ非サルナリ

第八十五条〇何レノ場合ト虽モ差押ヲ受ケタル他人ハ第七十九条及ヒ第八十条ニ規定アル申述ヲ为シタル後自ラ擔当スヘキモノト認メタル金高ヲ附託役署ニ預ケ以テ其利息ヲ拂フヘキ責及ヒ損失ノ償ヲ出ス可キ責又ハ盜難ノ責ヲ免カル、トヲ得可シ

附託役署ニ附託ヲ为ストノ要益ナルトハ皆人ノ熟知スル所ナリ既ニ民法草按ニ於テ此附託ニ関スル詳細ノ規則ヲ明定シタリ尤レハ茲ニ之ヲ重子テ説クハ無益ノ事ト信スルナリ

第八十六条〇最初ニ差押ヲ受ケタル原由ノ高

カ其差押ヲ受ケタル他人ノ拂フ可キ金高ヨリ以下ナルニ因リ右ノ他人其餘分ノ高ノ差押ヲ受ケタル義務者ニ辨濟スルモ差支ヘナシト思考シ以テ其辨濟ヲ行フタル後更ニ新ノ制止差押ヲ行フ時ハ必ス現ニ其者ノ有スル金高ノニ之ヲ限ルモノトス但シ新ノ差押人アルニ因リ最初ノ差押人カ被ムルニ至リタル損失ノ責ハ右ノ他人自ラ之ヲ擔当ス可シ  
本条ニ規定スル場合ハ嘗テ佛蘭西ノ法典中ニ之レアラサルガ故ニ佛蘭西ニ於テハ之ヲ論スル者皆其説ヲ一ニスルニ至ラズ本条ニ記載スル所ハ其諸説ノ中ニ就テ最モ理由ノ正確ナルモノヲ採リタルナリ



茲ニハ三個ノ原則ヲ示テ互ニ抵觸セシメザ  
ル様之ヲ相調和セシムルヲ要ス○第一、最初  
ノ差押人ハ其差押ヲ行フタル時ヨリ後ニ為  
サレタル辨済アルカ为メニ自ラ損害ヲ被ム  
ルニ至ル可キ理アラサルナリ○第二、新タニ  
差押ヲ為シタル者ハ敢テ已レノ差押ヲ行フ  
前既ニ其差押ヲ可キ金高ノ減少シタルトニ  
付キ故障ヲ述フルヲ得可キ理アラサルナリ  
○第三、先着ノ差押ナリト虽氏其配当ス可キ  
金高ニ付キ特権アルニ非サルナリ  
右三個ノ原則ヲ一見シテ之ヲ考フル時ハ幾  
ト相調和ス可カラサルモノ、如クニ思ハレ  
トモ本条ノ法則ハ善ク之ヲ抵觸セサル様ニ

計リテ定メタリ

爰ニ尤ノ一例ヲ示シテ法律ノ決定スル所ヲ  
説明ナラシメントス

甲者(第一ノ差押人)ハ金高一千円ノ権利者ナ  
リ而シテ千五百円ノ金高ニ付テ制止差押ヲ  
為セリ○差押ヲ受ケタル他人ハ自己ノ権利  
者ナル差押ヲ受ケタル義務者ニ對シテ右金  
高ノ差五百円ヲ辨済スルヲ得可キモノト思  
考セリ其後々未タ甲者ニ右千円ノ金高ヲ配  
当スル前更ニ乙者ナル新ノ差押人アリテ自  
ラ受ク可キ金高五百円ノ为メニ既ニ差押ハ  
ラレタル千円ノ金高ニ付テ一ノ差押ヲ行ハ  
リ○乙者ハ勿論其差押ヲ可キ金高ノ最早ヤ